



あれから
魔物を狩り続け
時に孕まされ

「転生」を繰り返した……

その度に私は強くなり
心は魔に蝕まれた……

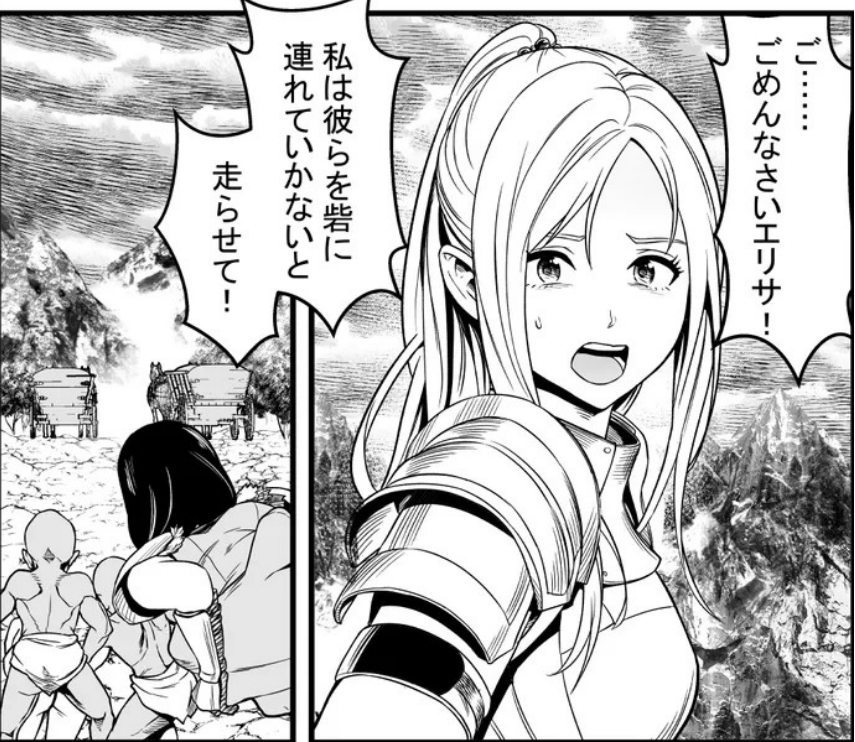
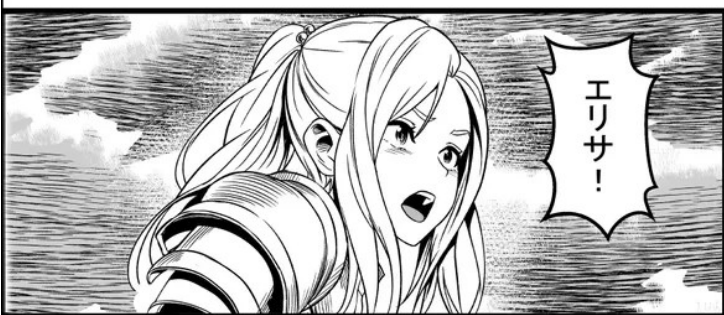
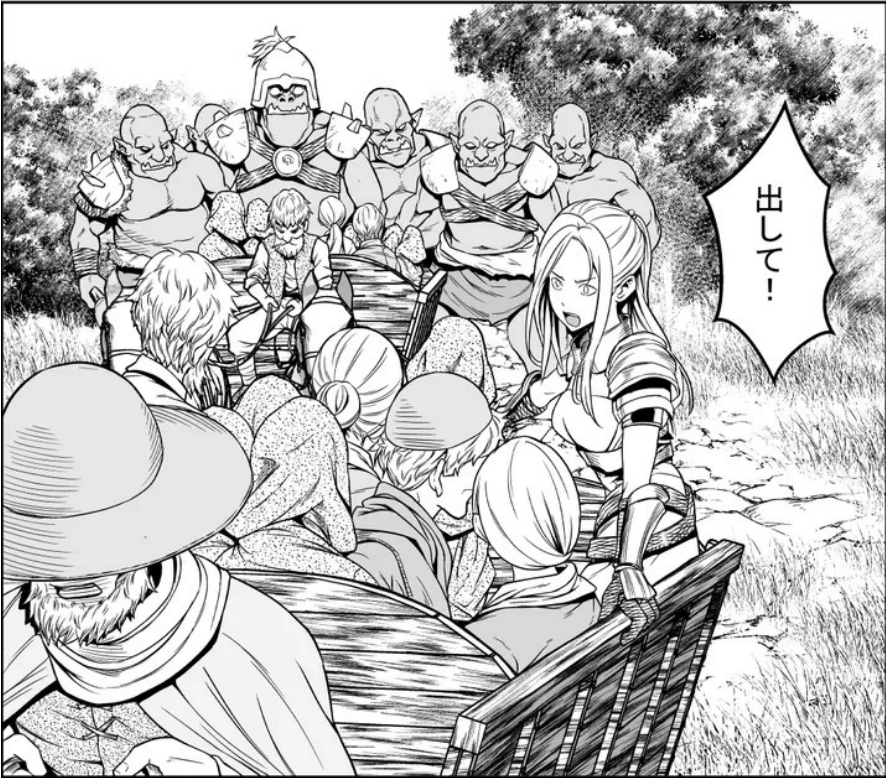
エリシエルは
言っていた

人の世界に
深入りするなど……

我々は人でも
魔物でもない
狭間の存在……

人にとって
恐怖され忌避される存在であり
希望とはなれないのだと……

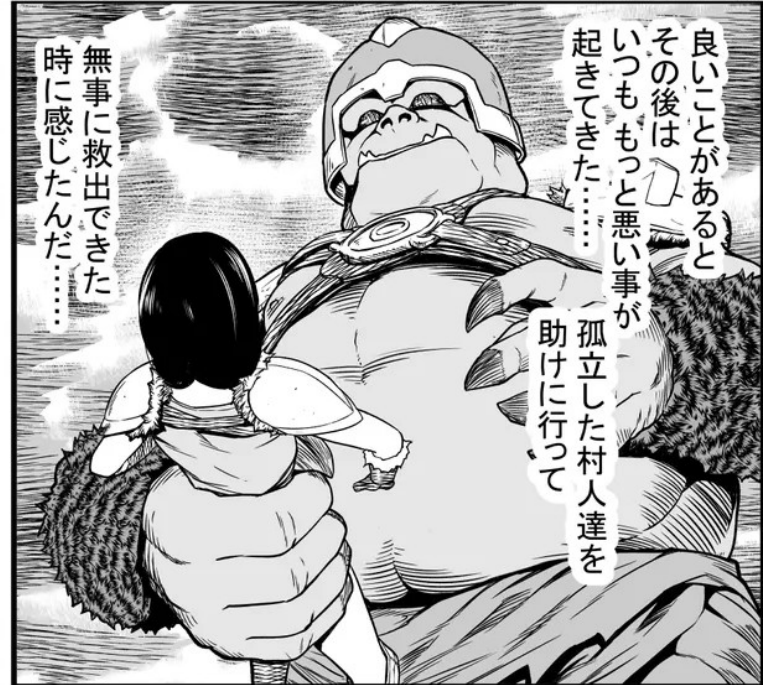
第四紀・241年 旧オルシュヒルネリゼ王国 ラーデン領





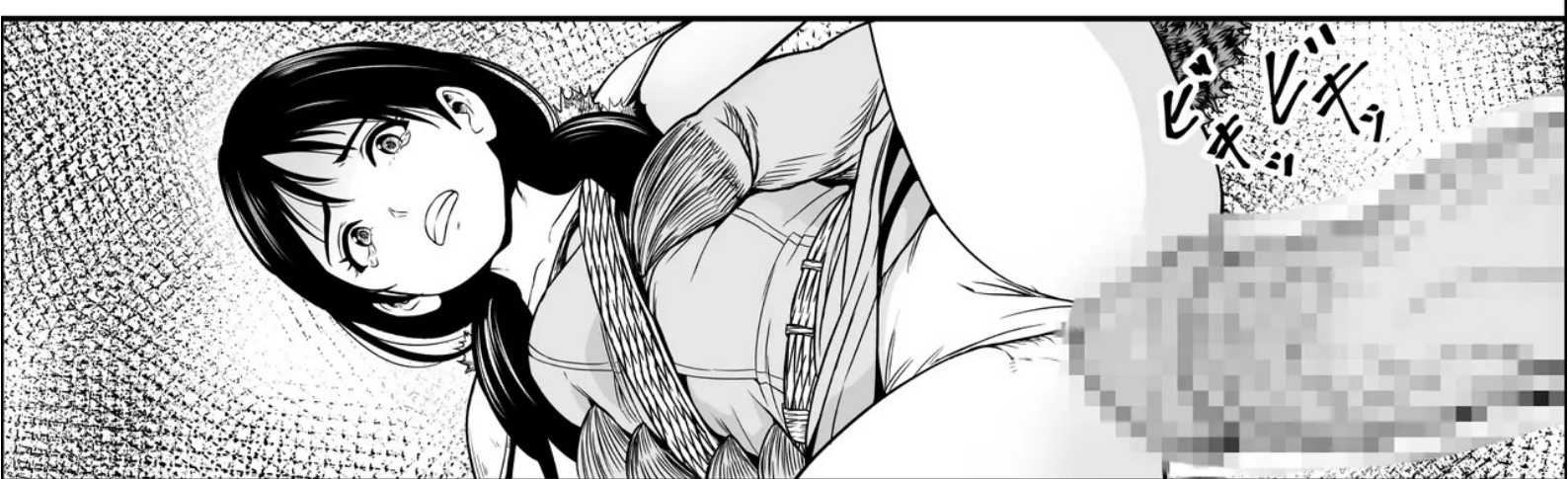
だから
その予感があつたんだ

きつと「のまま」
良いことだけで
終わらない……って

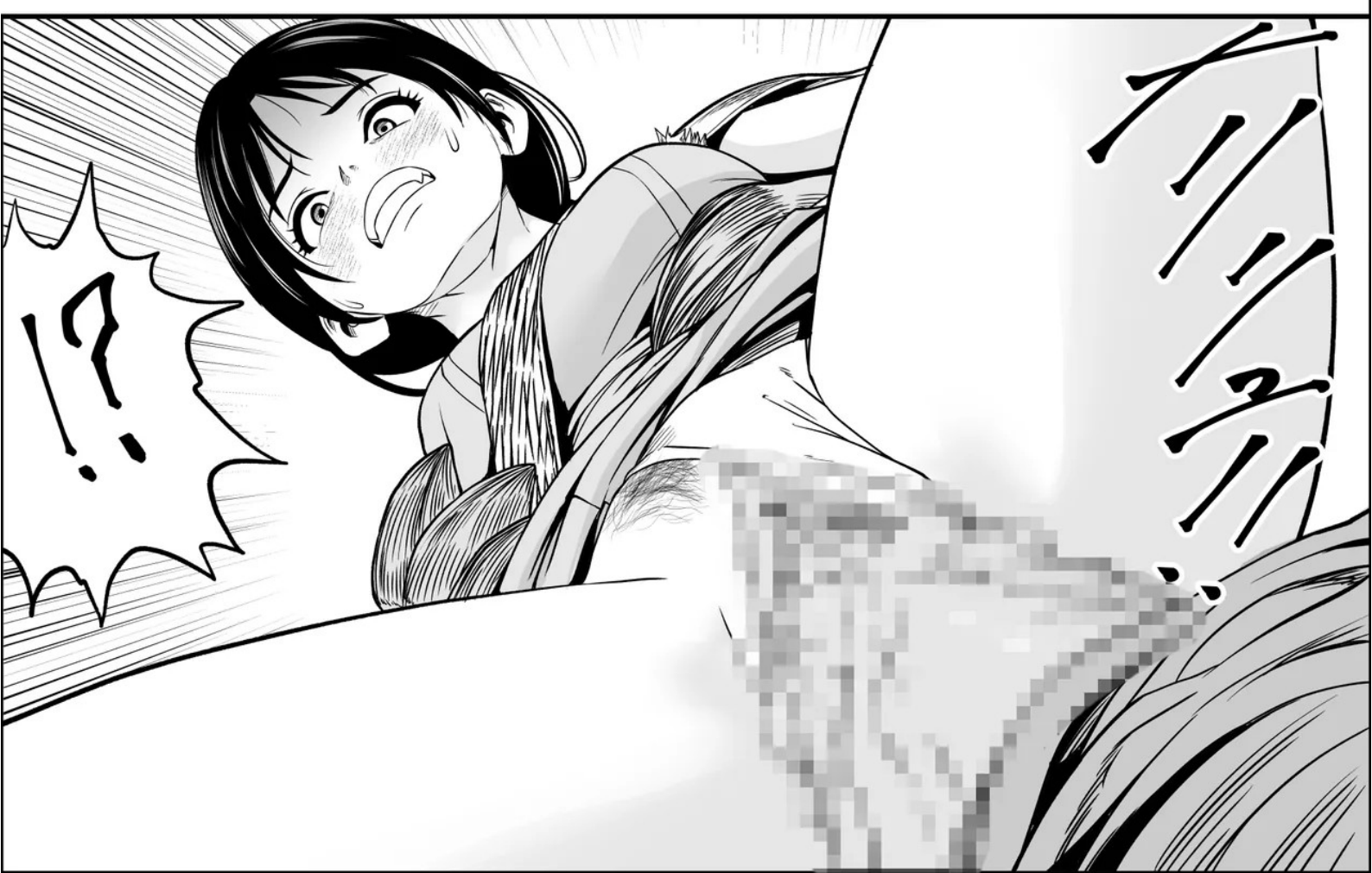


無事に救出できた
時に感じたんだ……

良いことがあると
その後は
いつももつと悪い事が
起きてきた……
孤立した村人達を
助けに行つて

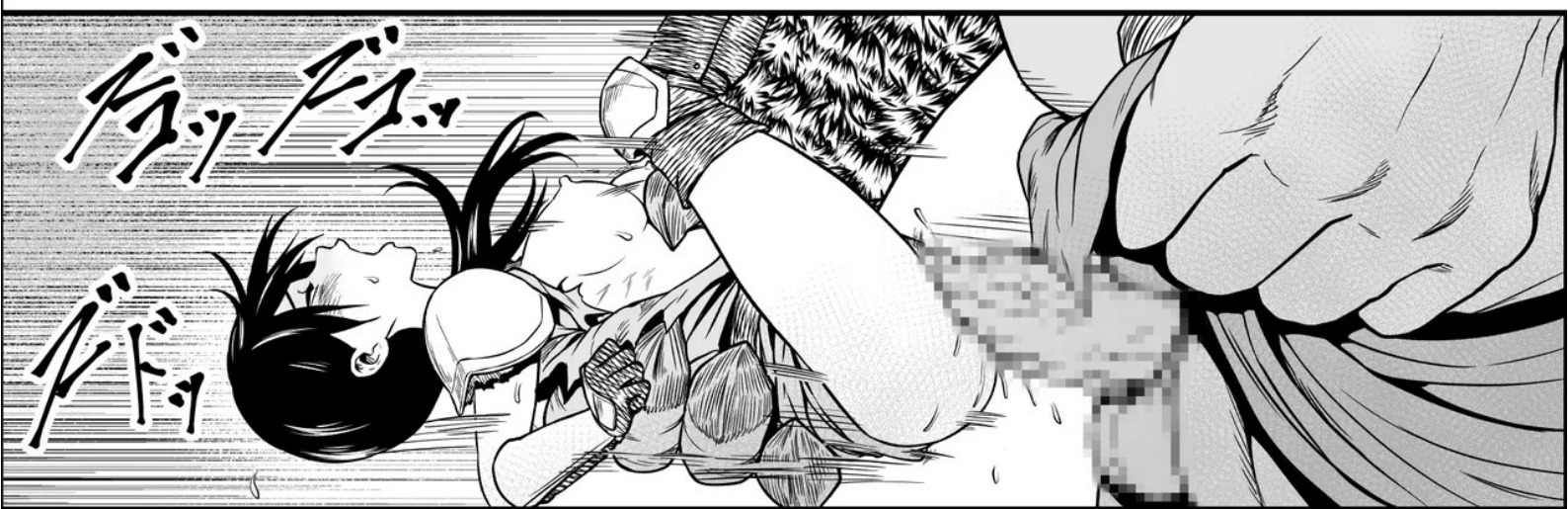
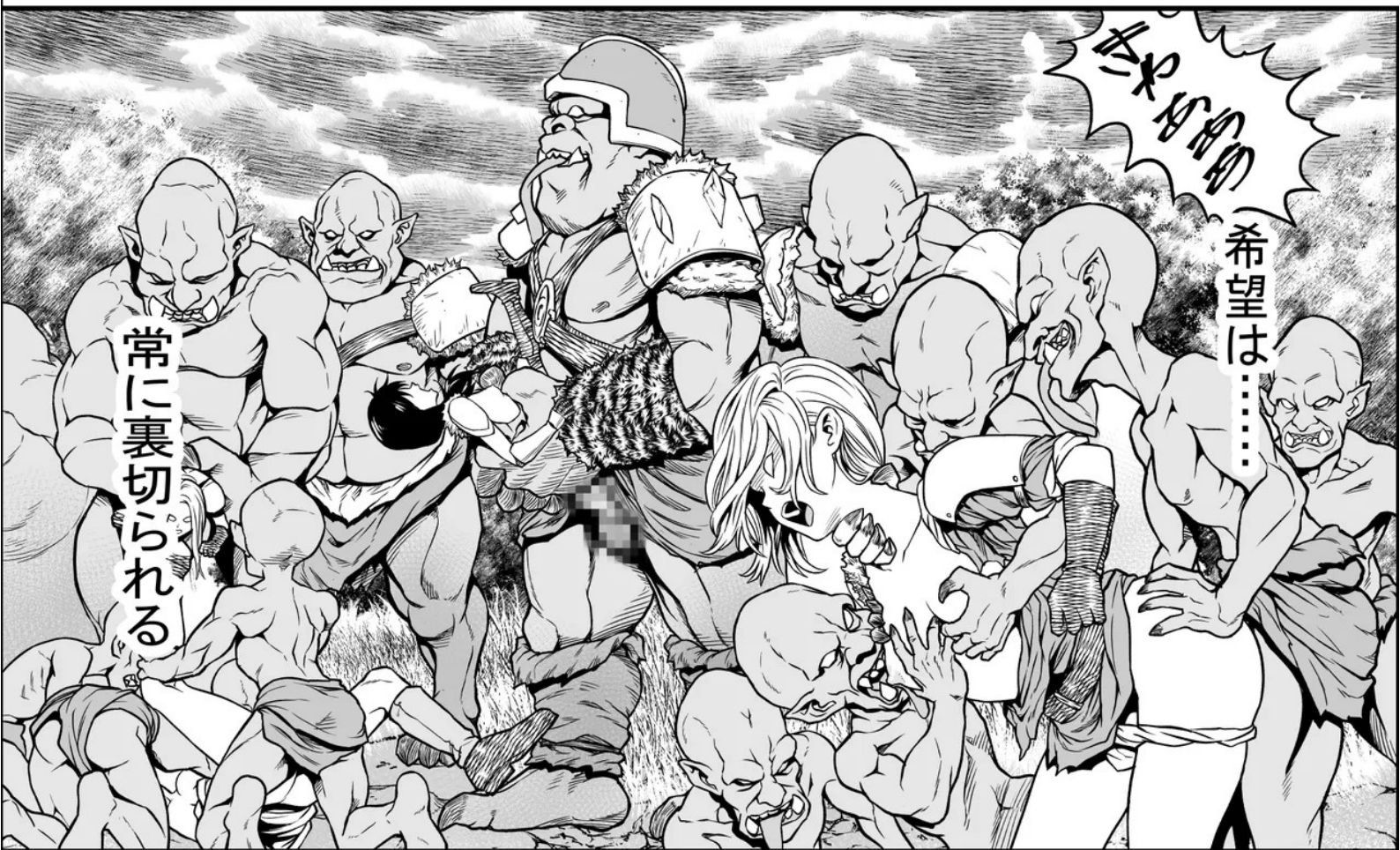


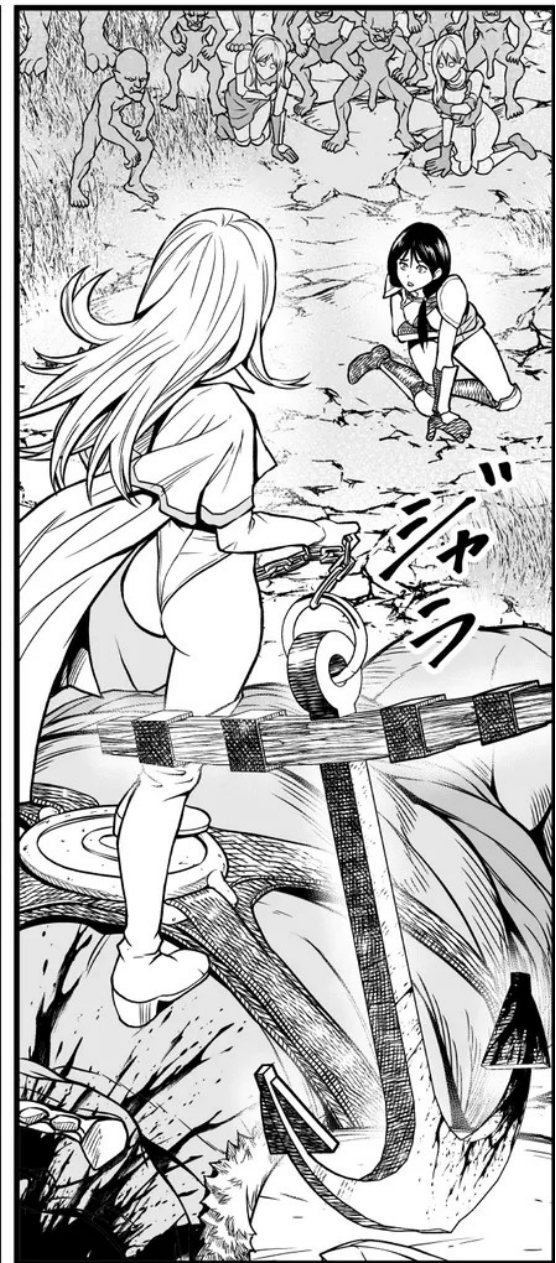
ビクビク

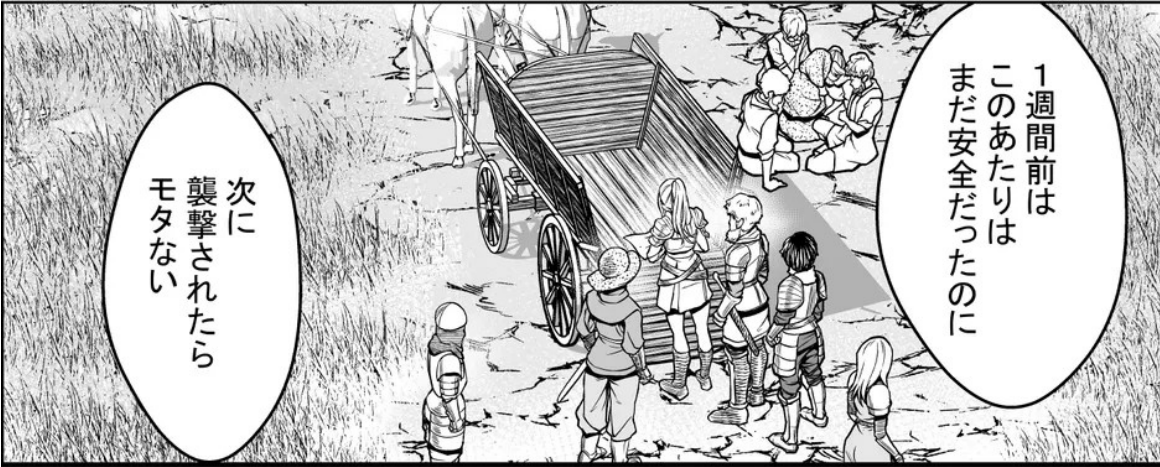


アウ!

アウ!







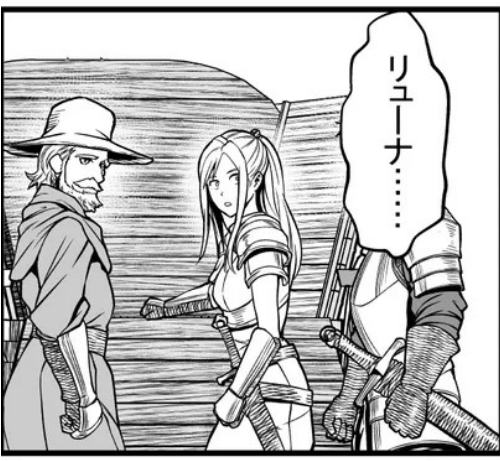
巡察隊はもう半分になっちゃった

1週間前は
このあたりは
まだ安全だったのに

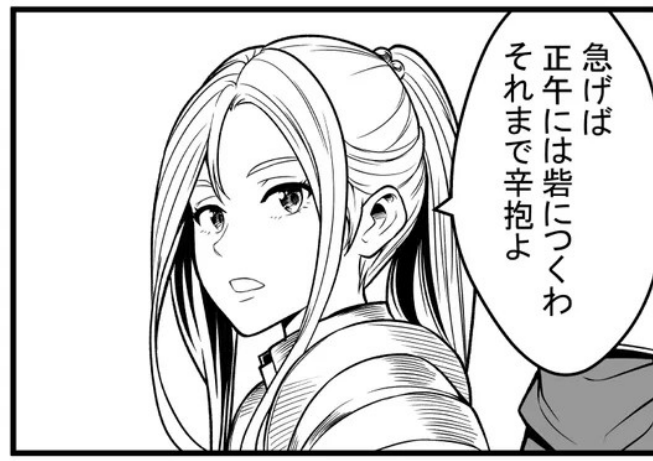
次に
襲撃されたら
モタない



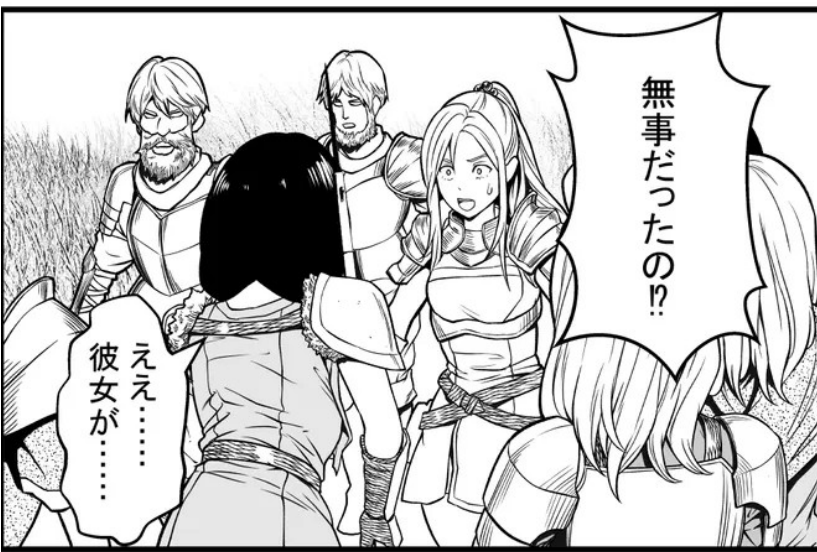
それに
どういっわけか
魔物が強くなっている



リユーナ……



急げば
正午には砦につくわ
それまで辛抱よ



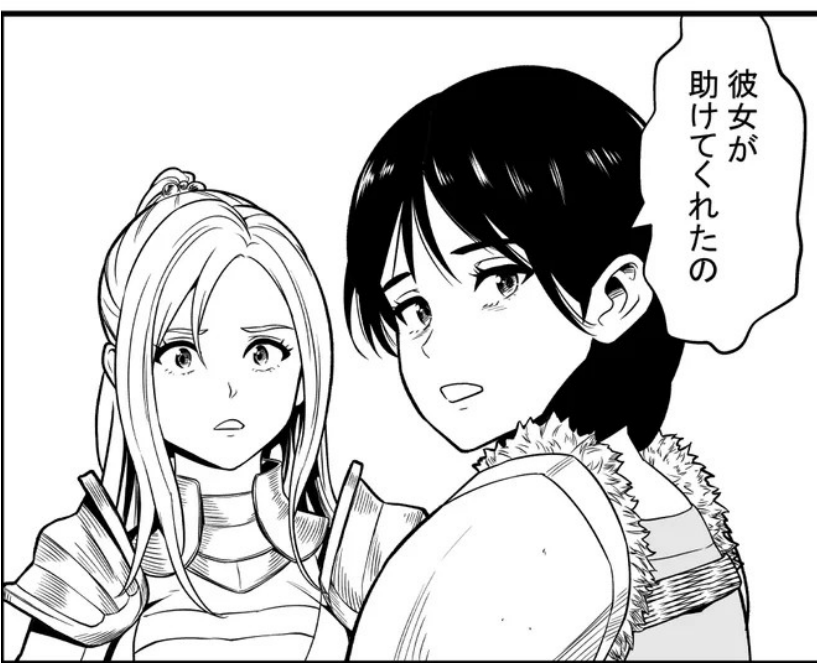
無事だったの!!

ええ……
彼女が……

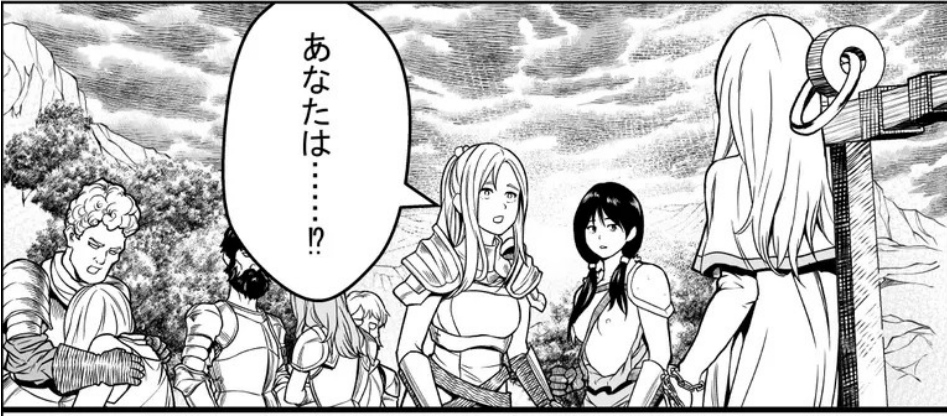


エリサ!

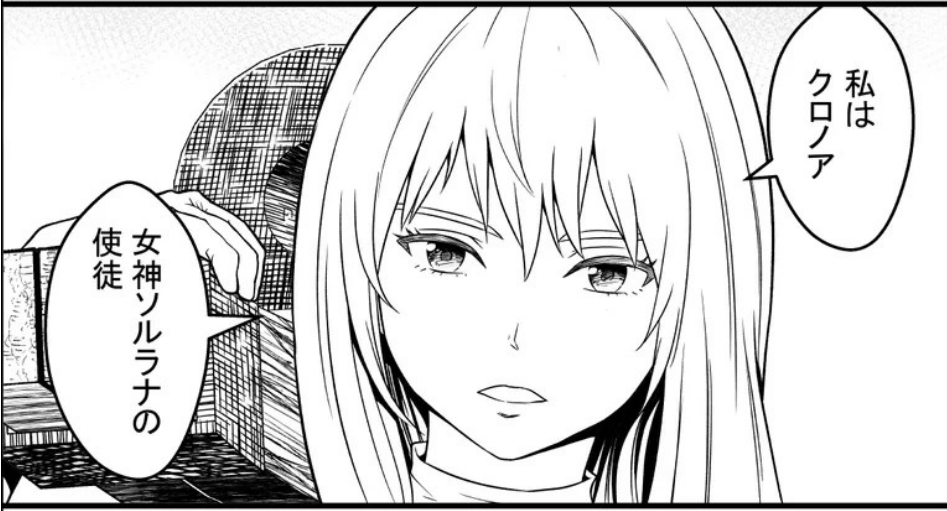
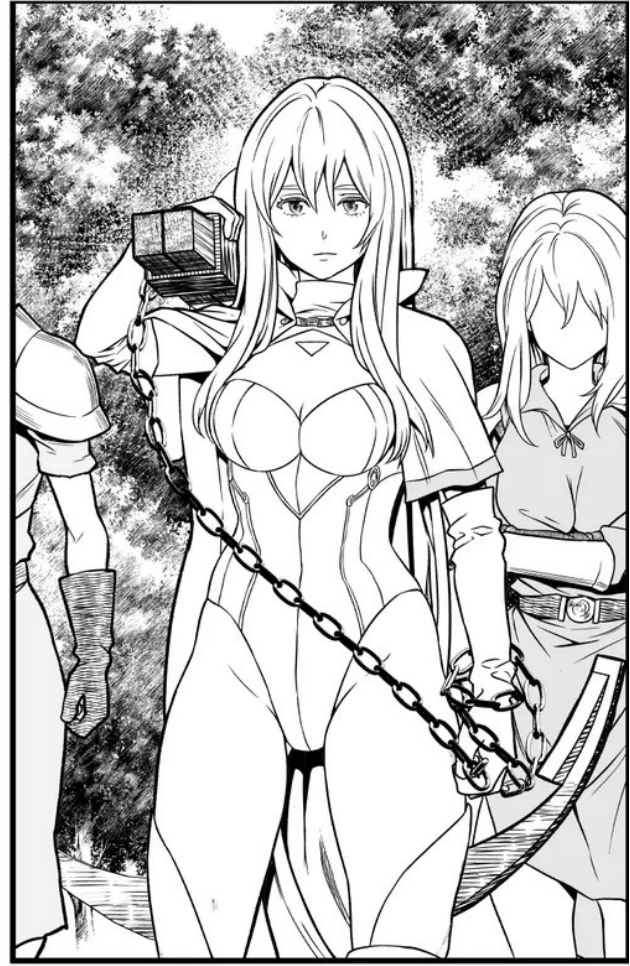
みんな……!



彼女が
助けてくれたの



あなたは……?!



私は
クロノア

女神ソルラナの
使徒



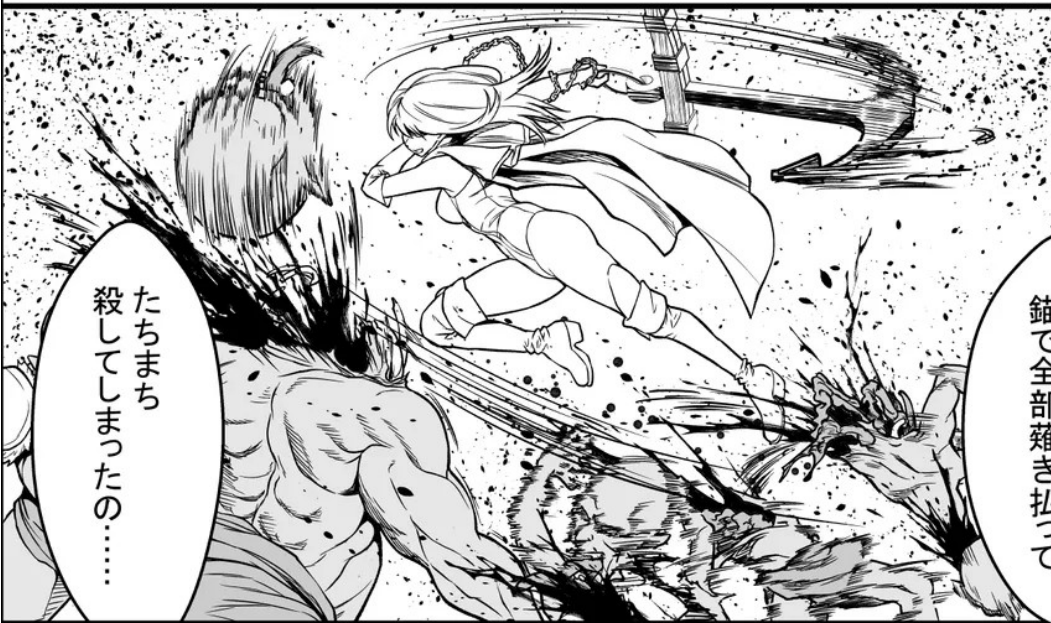
昔はそうだった……
でも今は違う……

別の方法で使徒としての
使命を遂行している

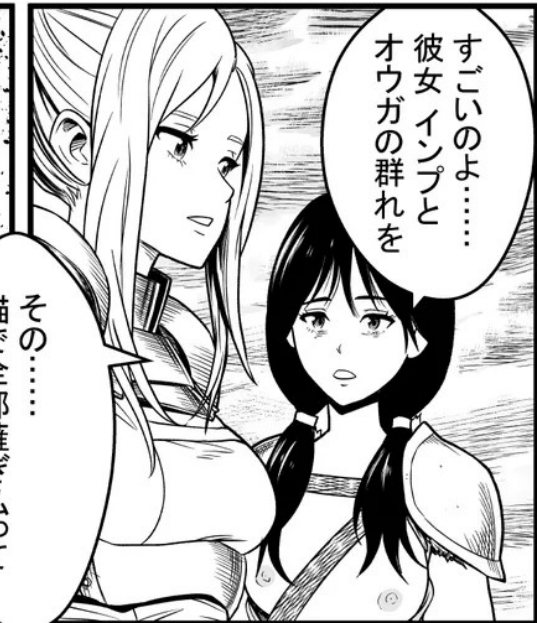


ソルラナの使徒といえば
聖女修道会なら
知っているけれど

あなたも
聖女なのかしら?



たちまち
殺してしまったの……



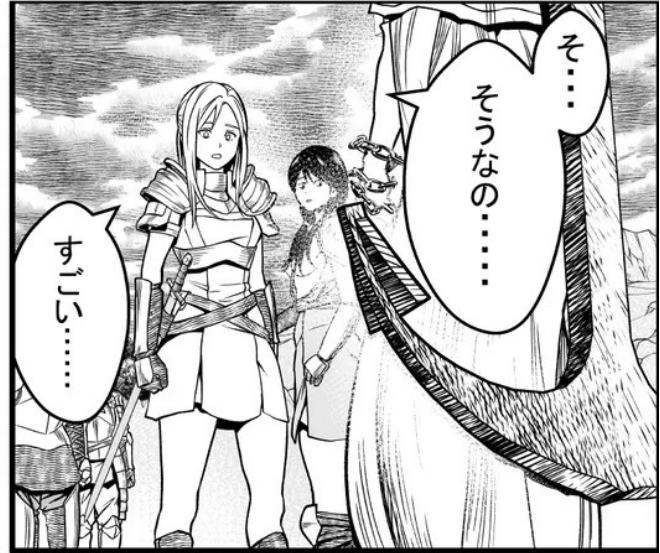
すごいよ……
彼女インプと
オウガの群れを

その……
錨で全部薙ぎ払って



私はリユーナ

とにかく
仲間を
助けてくれて
ありがとう……



そ……
そうなの……

す……



1週間ほど前に
アルニ村……

彼らの村から
狼煙があがって
救出に派遣されたのよ

それで今は
彼らを引き連れて
砦へ帰る途中なの



この地方に
魔物の大量流入……
福津波まがつなみが
発生してから

そこで戦って
いたんだけど

この街道の先にある
ラーデン砦の
巡察隊の中隊長をしている



砦は
陥落しているわ

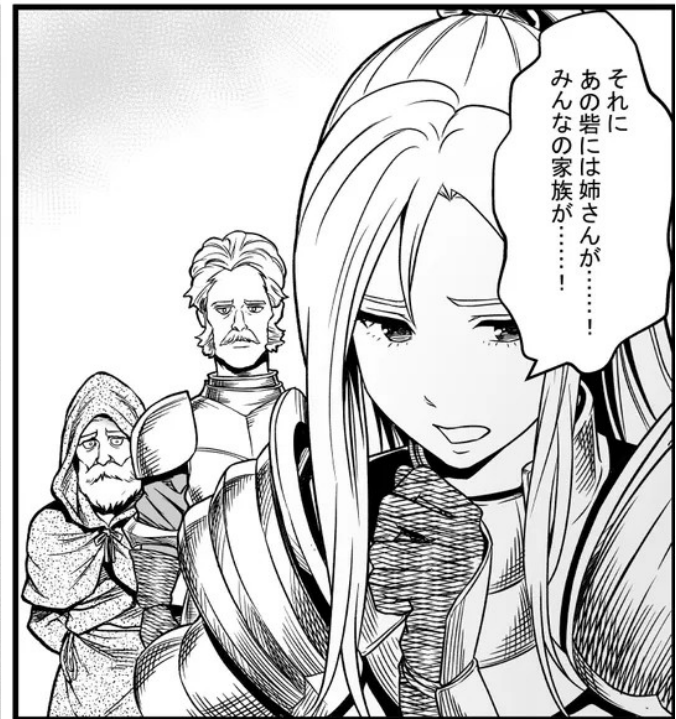
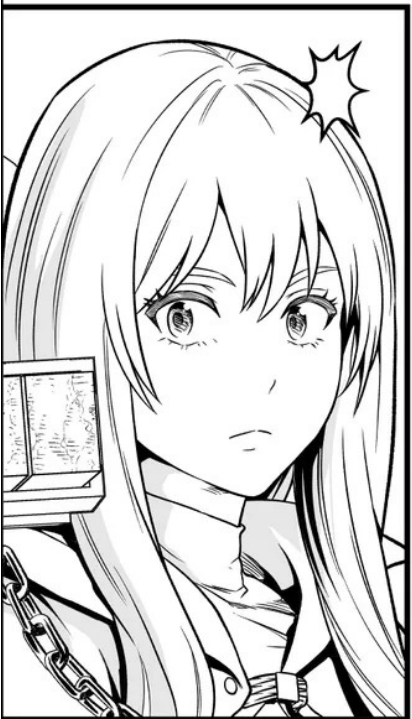
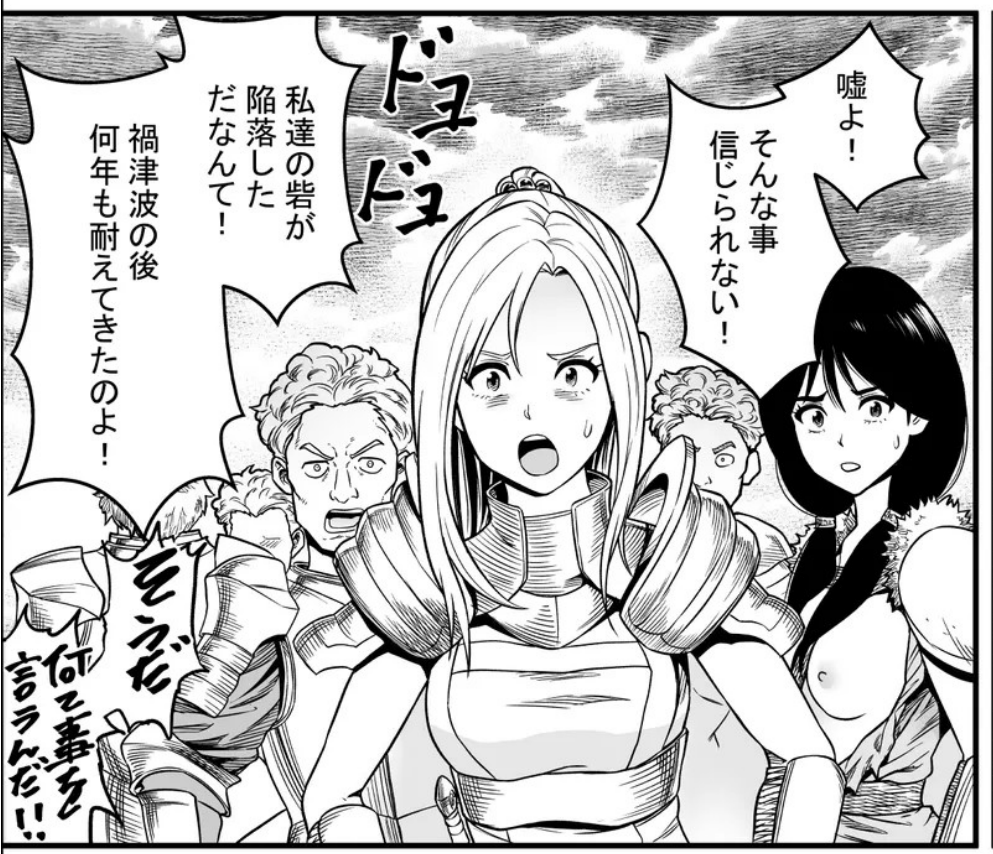
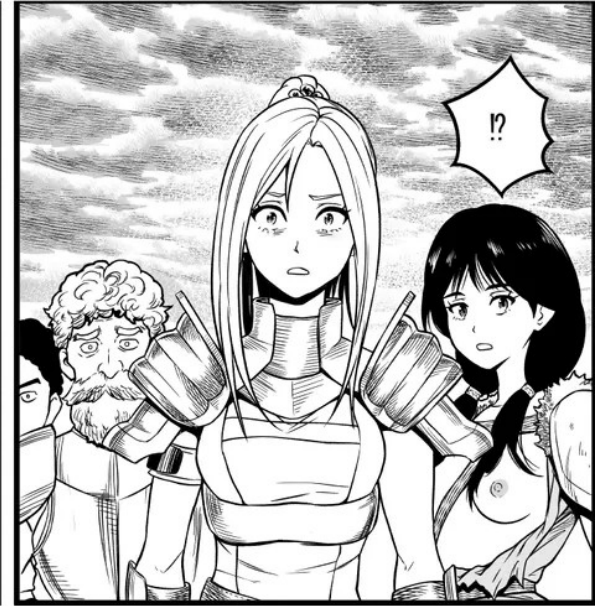


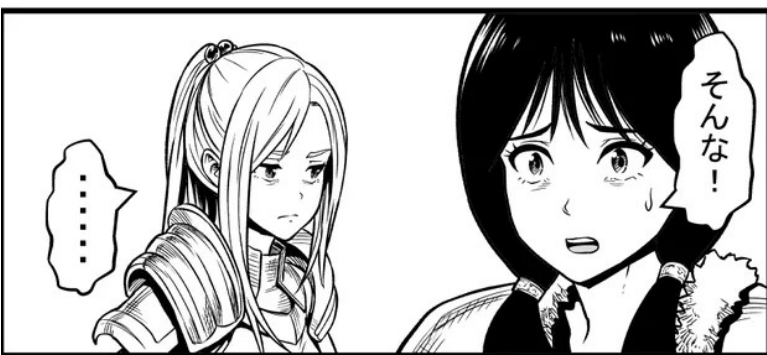
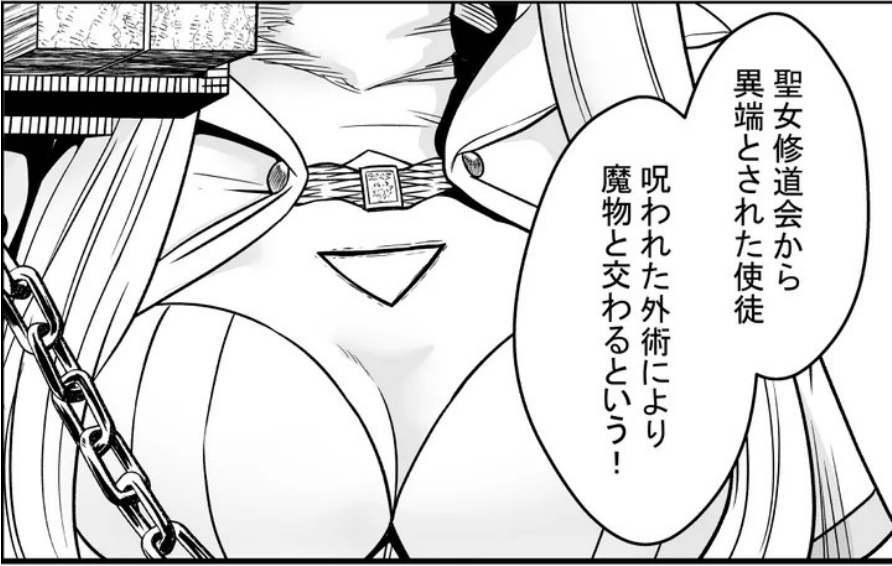
この街道の先？

え？

ええ
そうよ

この街道を
北上したところにあるわ





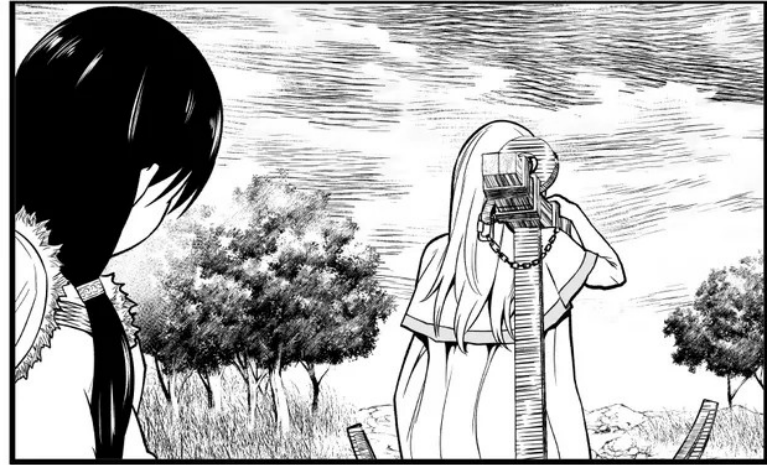


歓迎されないのは
慣れている

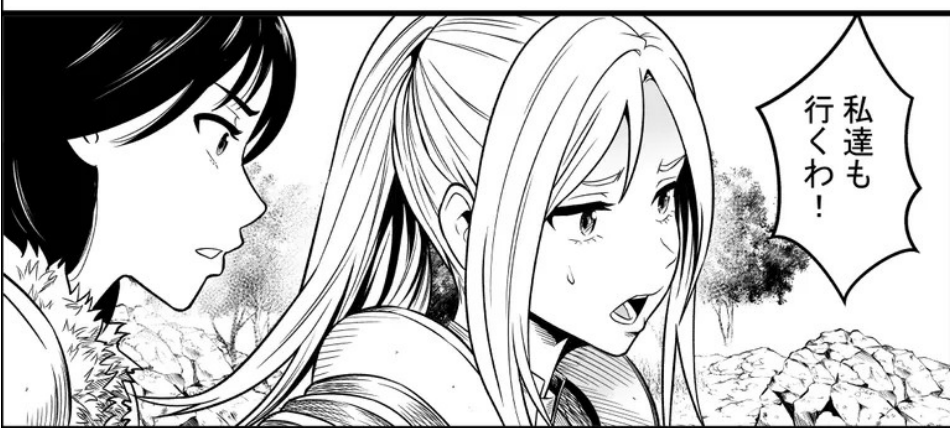
だから私の用事を
済ましにい

私は砦の魔物に
用があるの

その外術のために



クロノア……
どこへ？



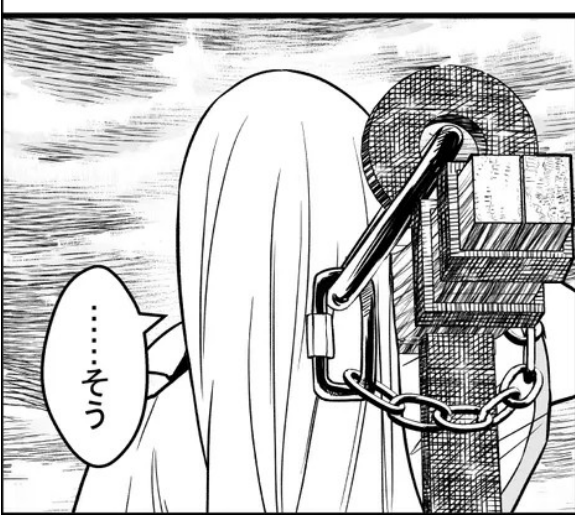
私達も
行くわ！



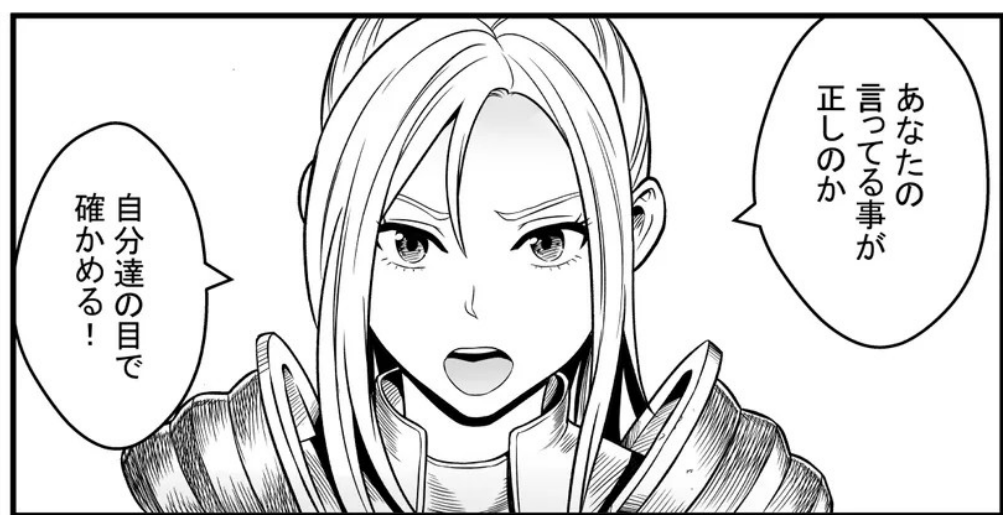
あなた達は
西に逃げなさい
比較的安全だし

川を越えた先に
3日ほど歩けば
大陸諸侯軍の前線がある

そこで
保護してもらつと良い



……そう



あなたの
言ってる事が
正しいのか

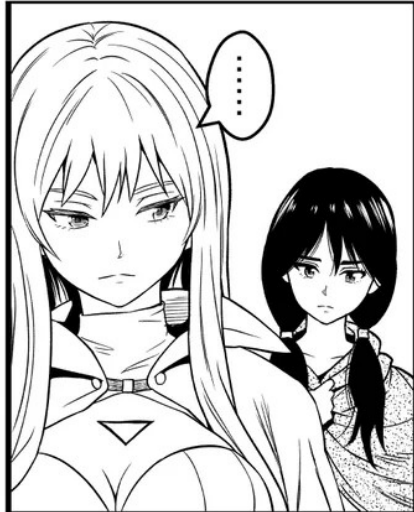
自分達の目で
確かめる！



みんなの事
ごめんなさい……

ガラガラ

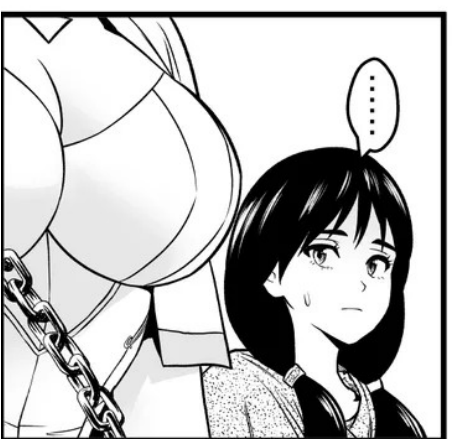
大変な事ばかりで
心が荒んでしまつて……



……



ガラガラ



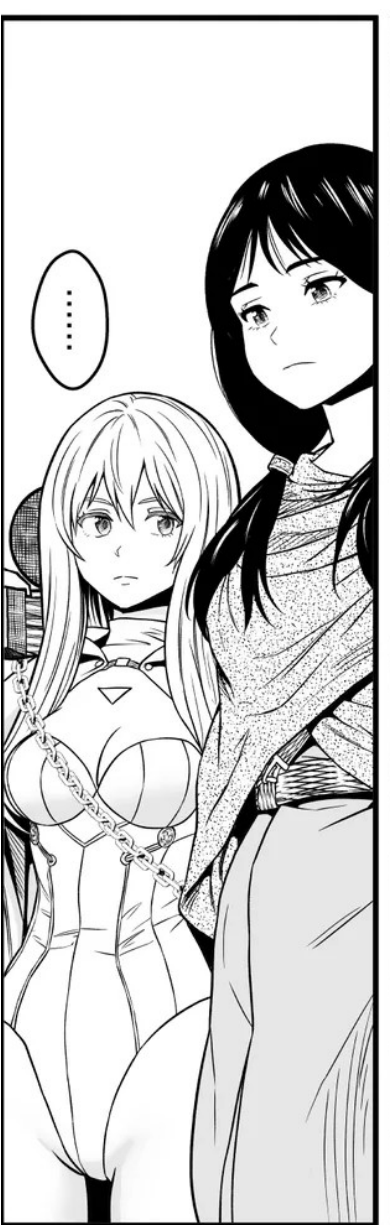
……



慣れてるから
平気よ……

それに
言ってる事は
強ち間違いない

私達が外術で
魔物と交わる
凶々しい存在だというのは



……



人外の力があれば
人の武器を使う必要もない
だからコレを使っている

シヤラ

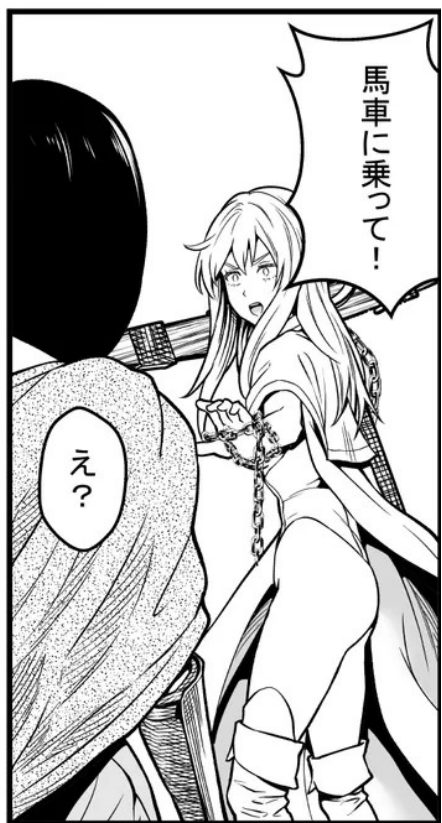
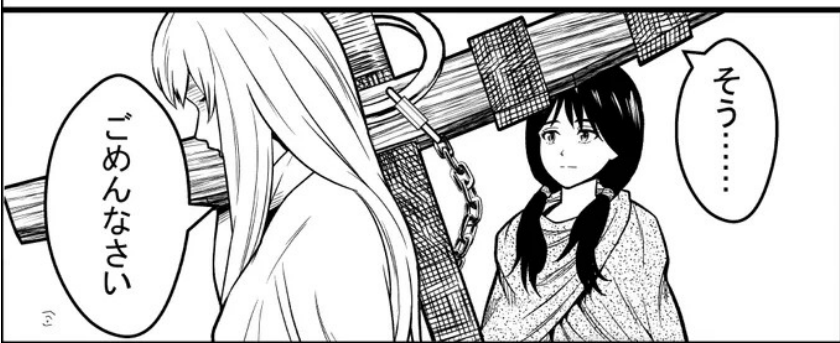
私の仲間は
炎や闇を結晶化させる
魔法を放つけれど
私の能力はこの薙力……

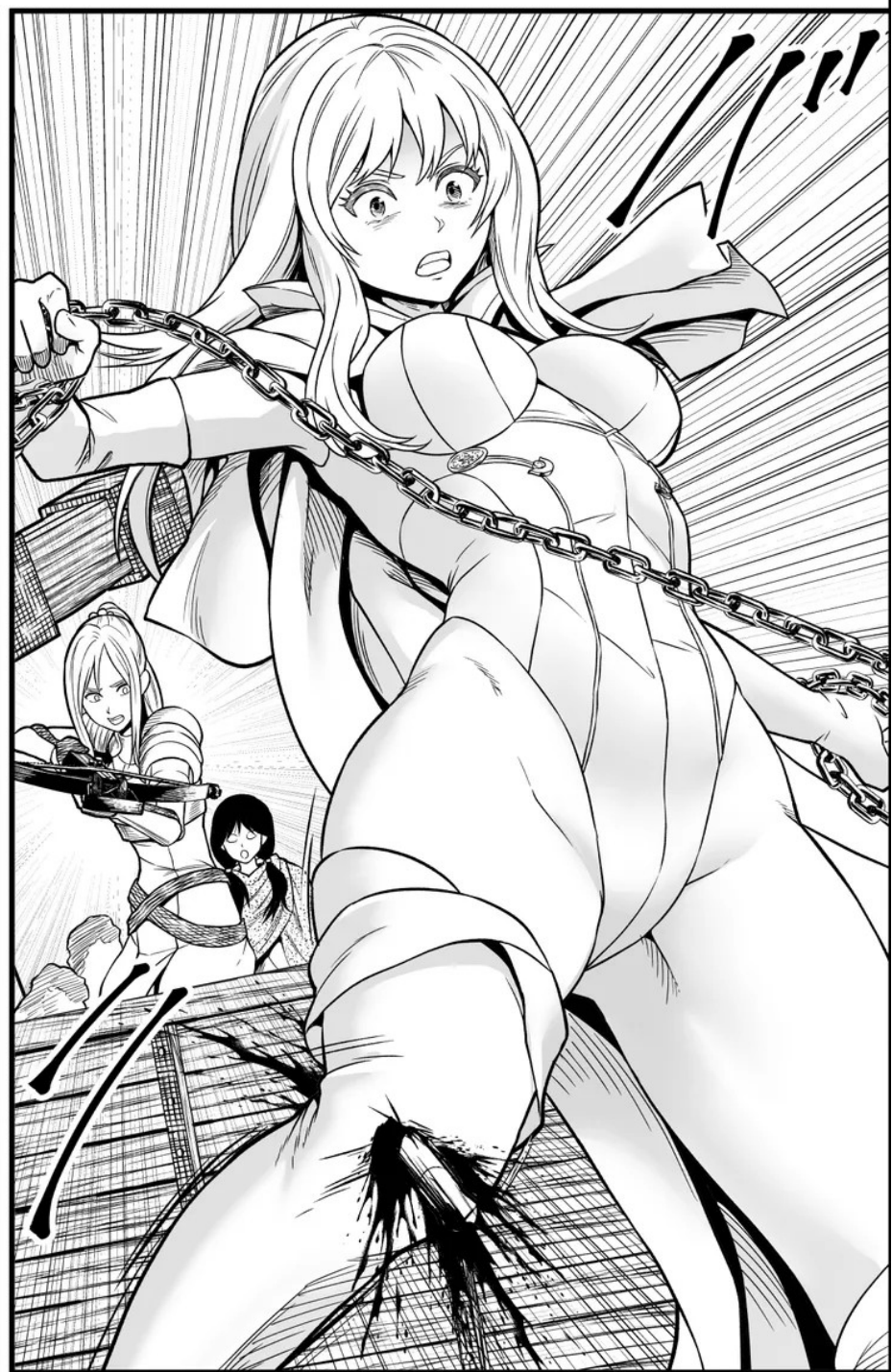
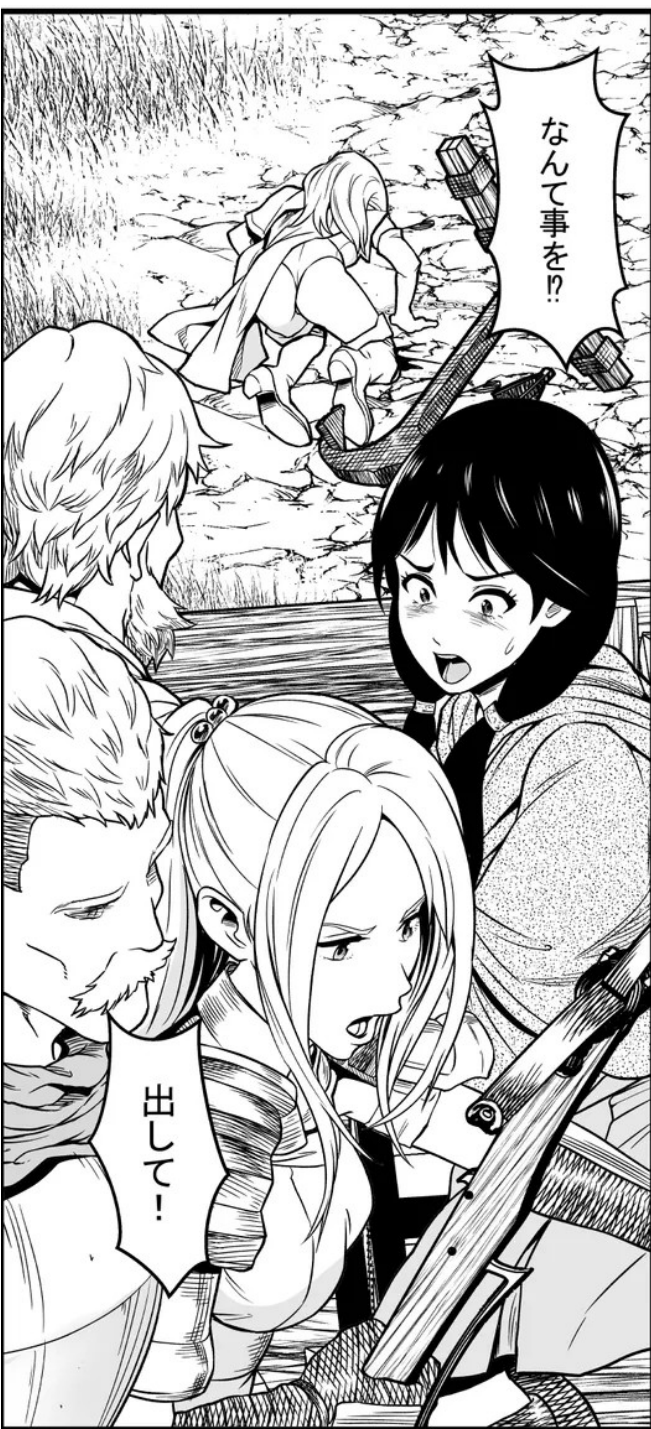
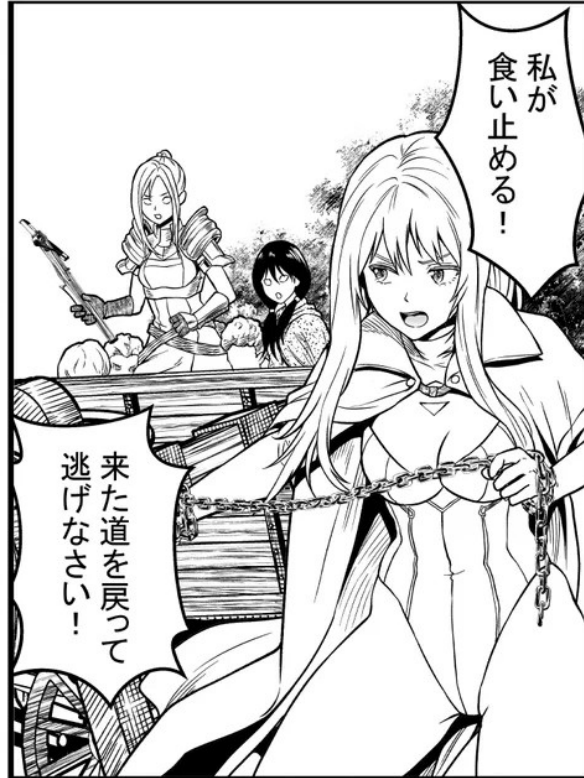


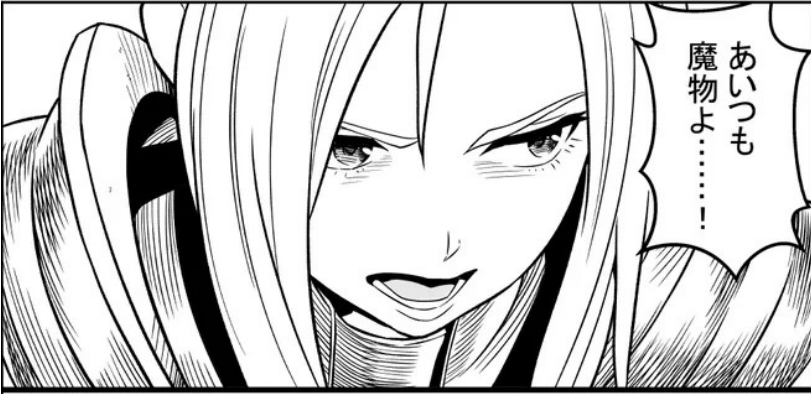
そのすごい
力も……

魔法の力なの？

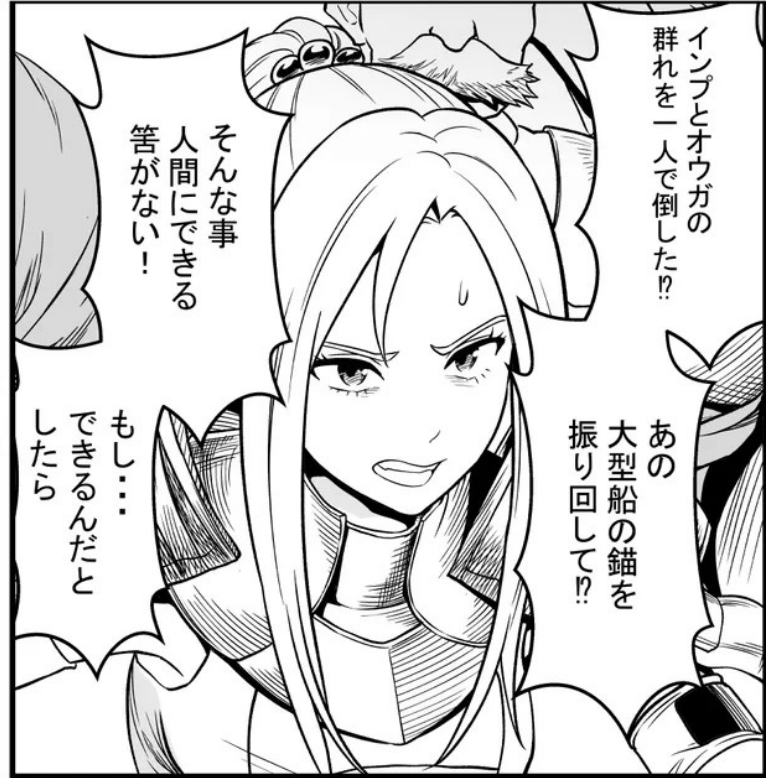
ええ……
秘術によって手に入れた
「魔物」の力……







あいつも
魔物よ……!

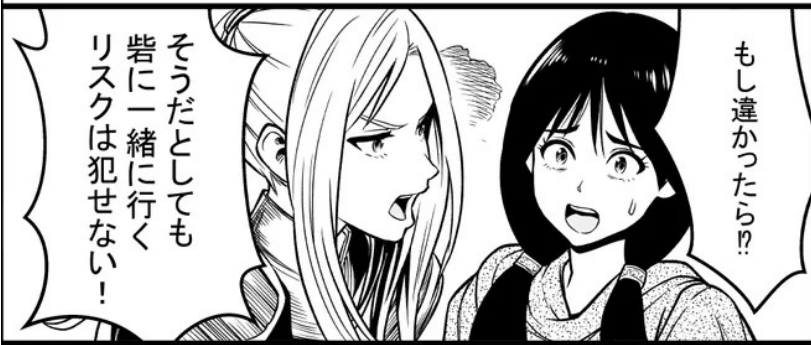


インプとオウガの
群れを一人で倒した!?

そんな事
人間にできる
筈がない!

あの
大型船の錨を
振り回して!?

もし……
できるんだと
したら



もし違かったら!?

そうだとっても
皆と一緒に行く
リスクは犯せない!



ごめんなさい

あんな優しさが
あるの?



あの戦い方は
人間の様には見えなかった

でも……
でも……
でも魔物に……

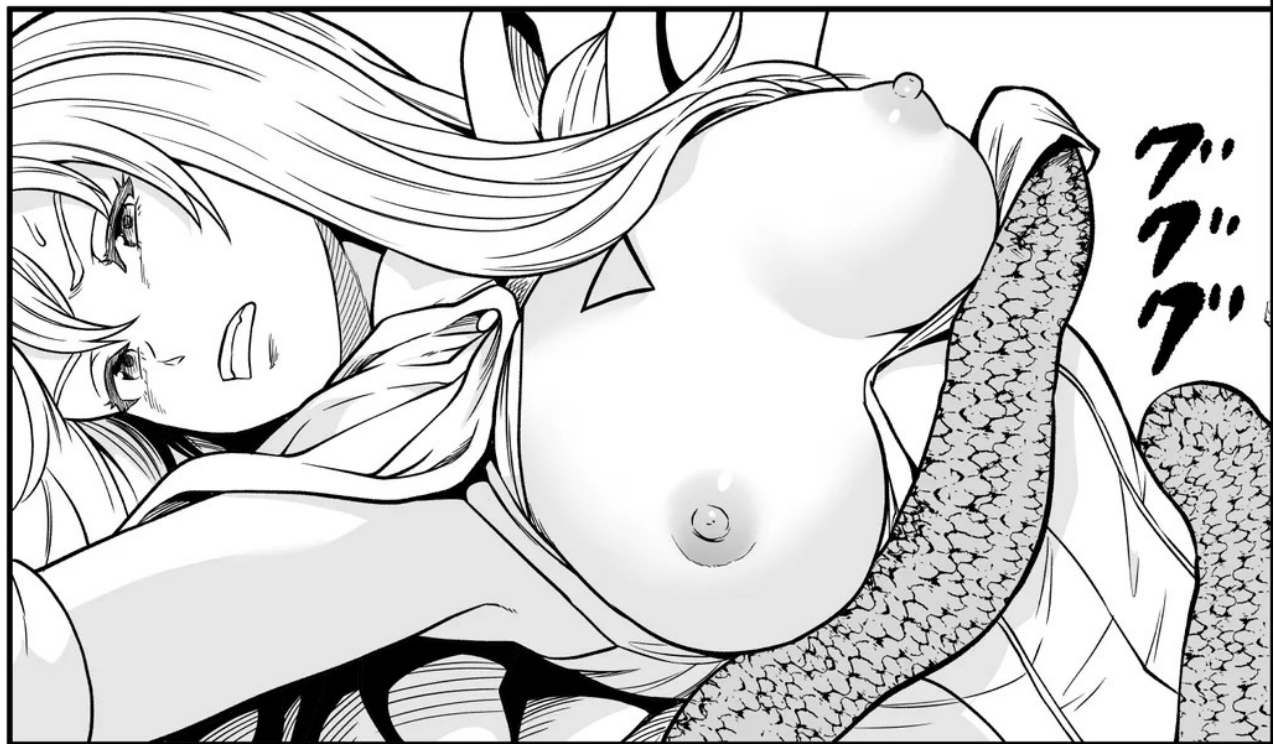
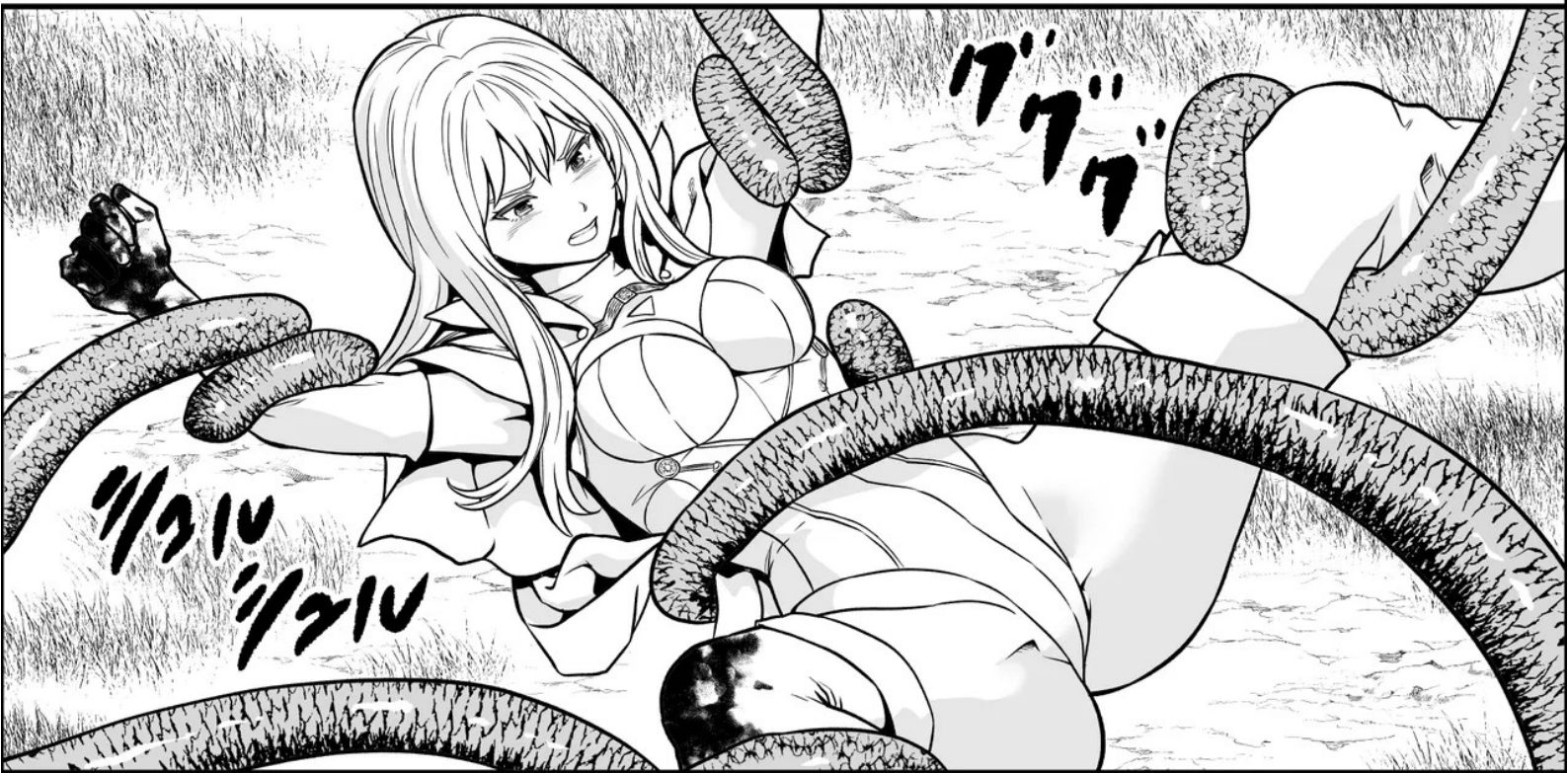


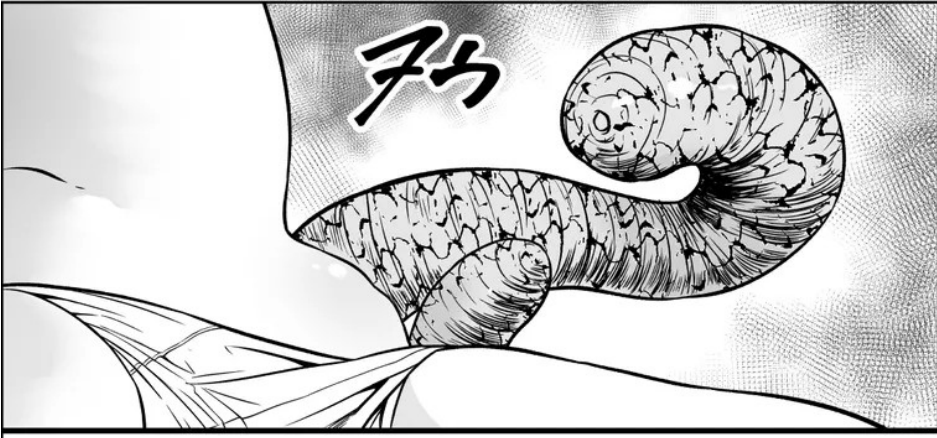
確かに……

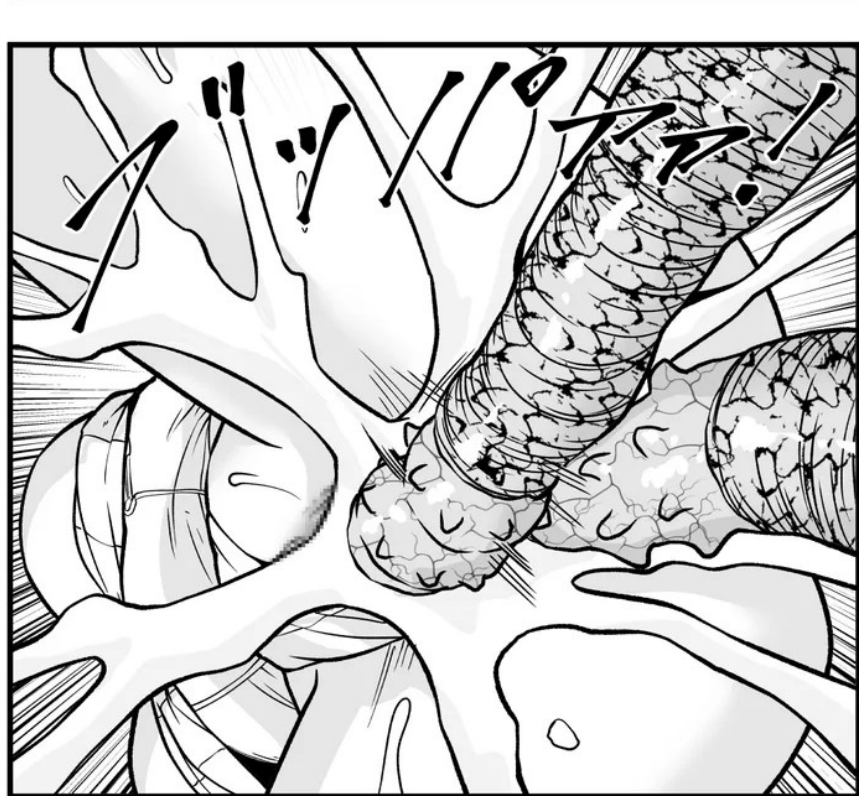
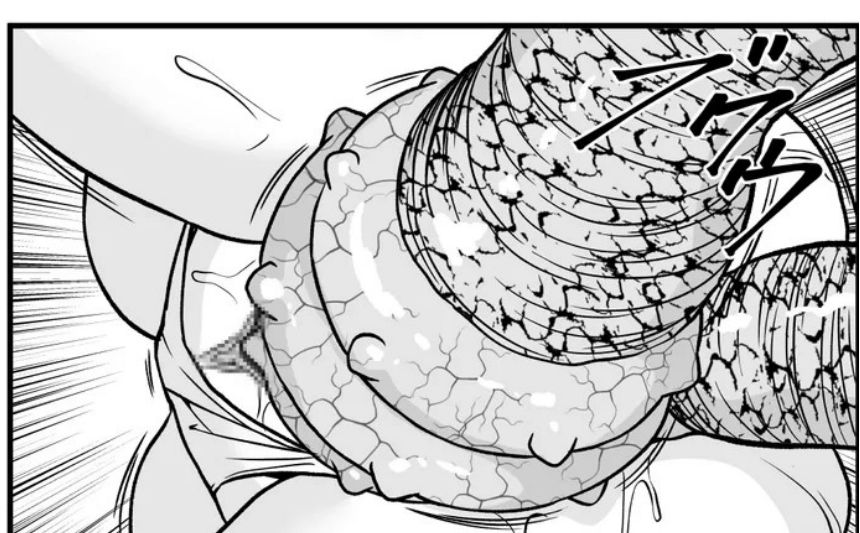
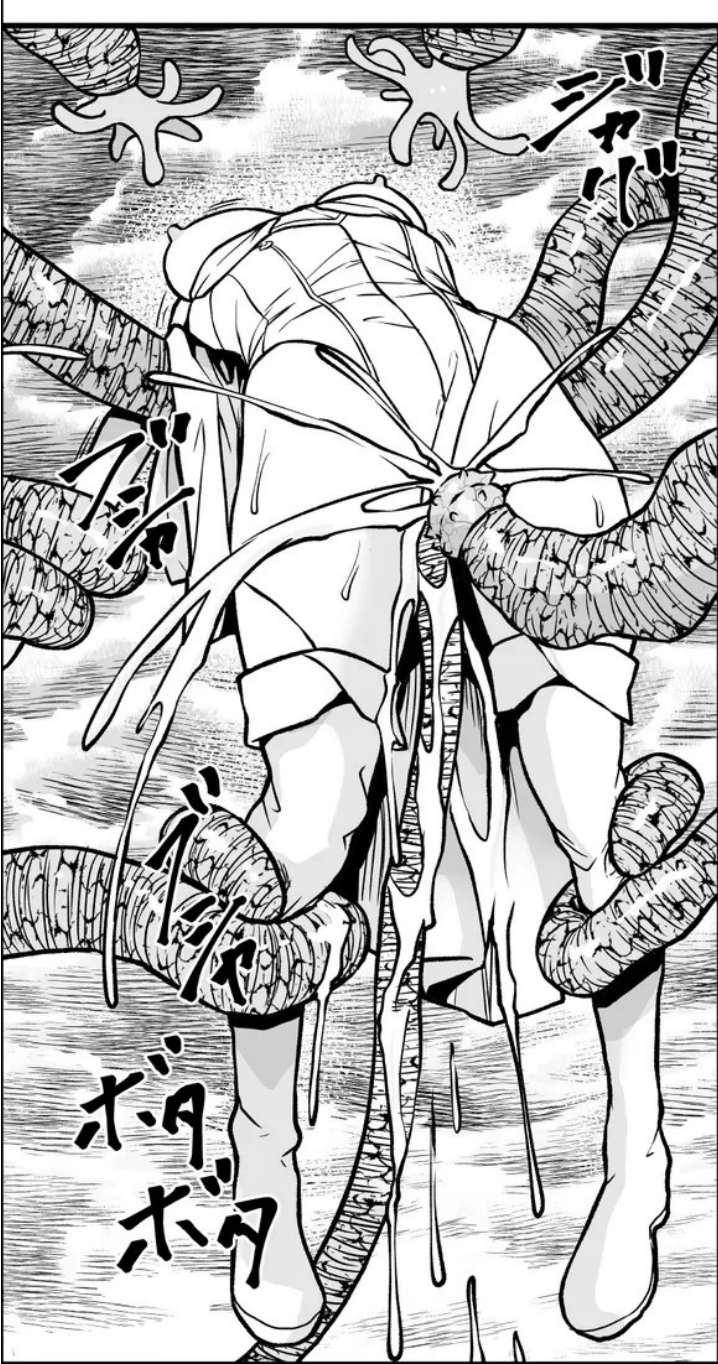


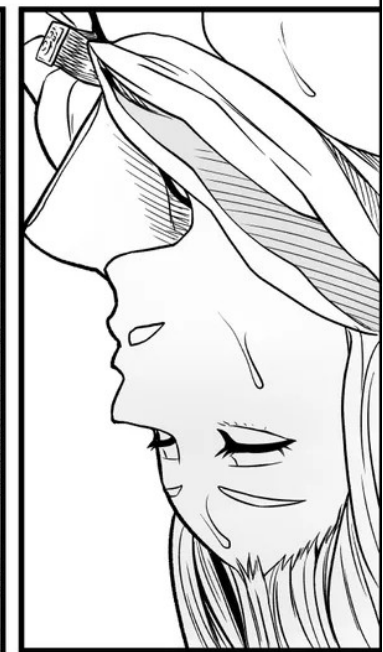
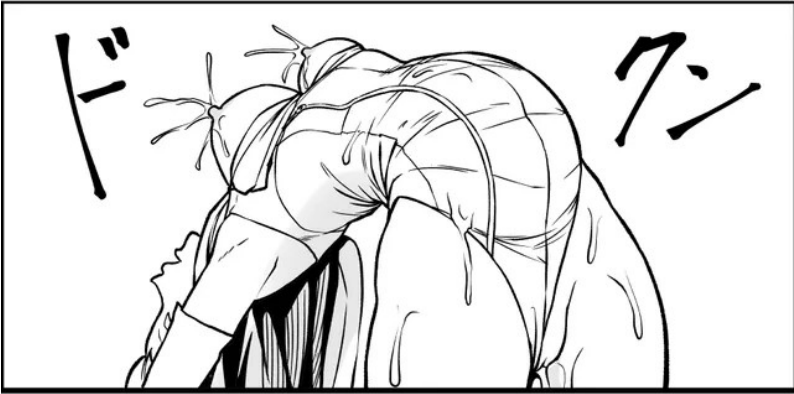
カカカカ

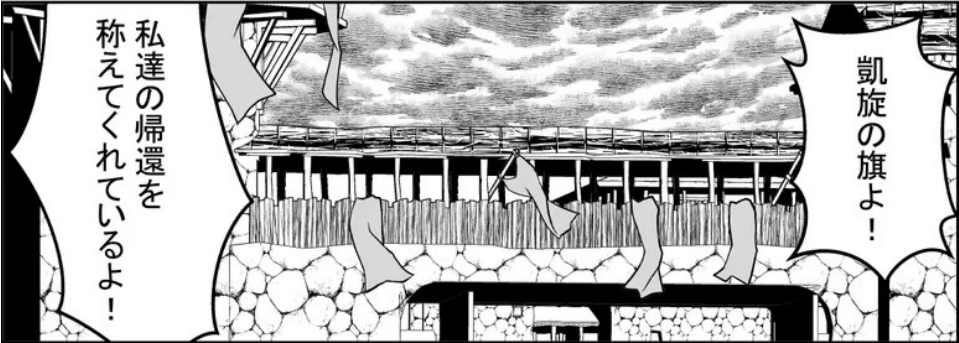












私達の帰還を
称えてくれているよ！

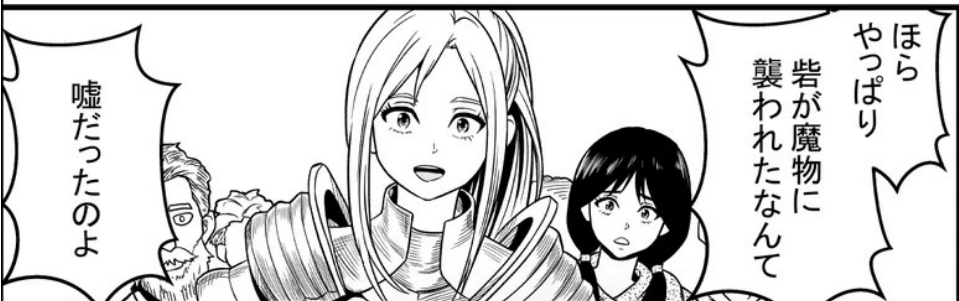
凱旋の旗よ！



見て！

ガガガガ

岩が見えた！

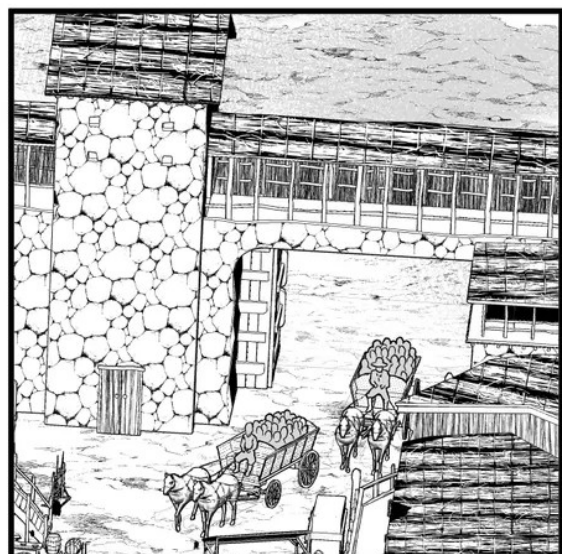


ほら
やっぱり
岩が魔物に
襲われたなんて

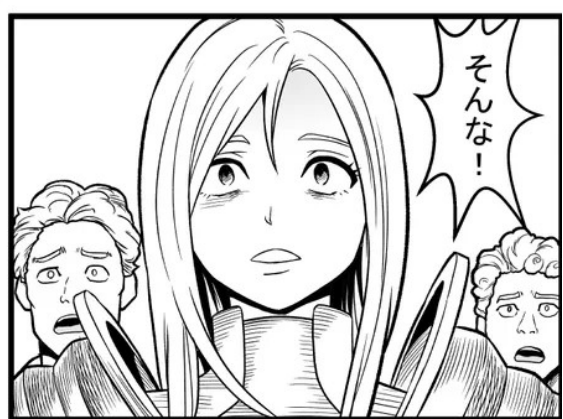
嘘だったのよ



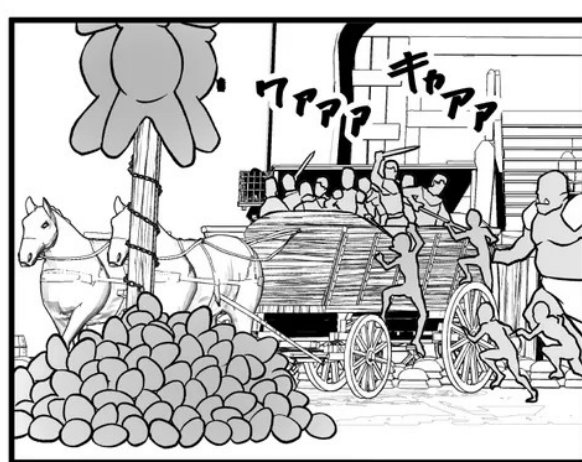
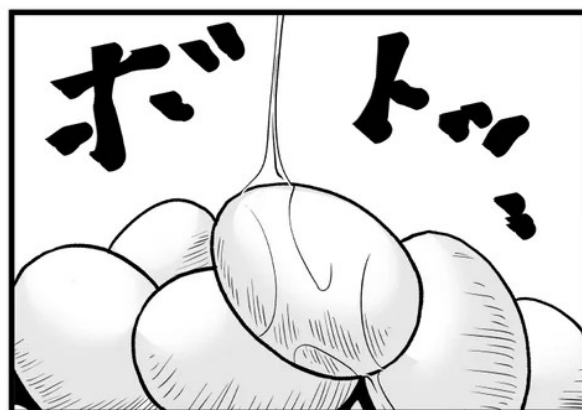
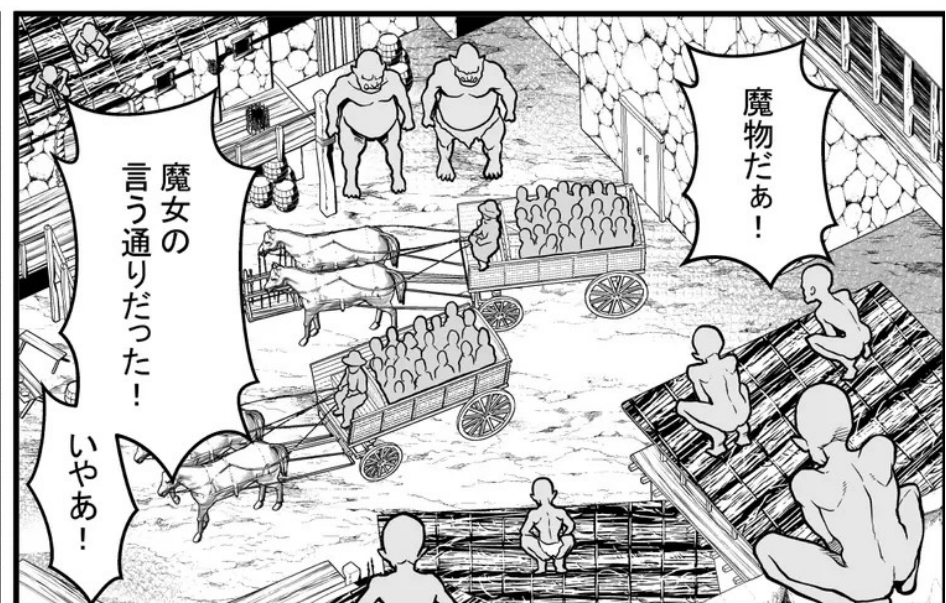
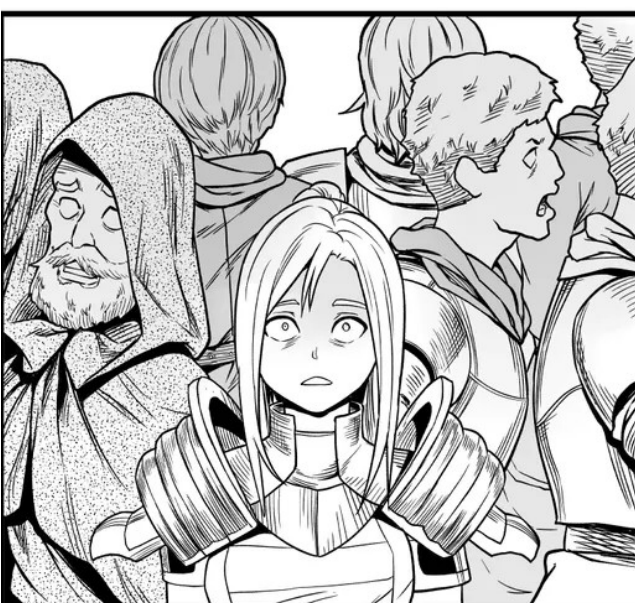
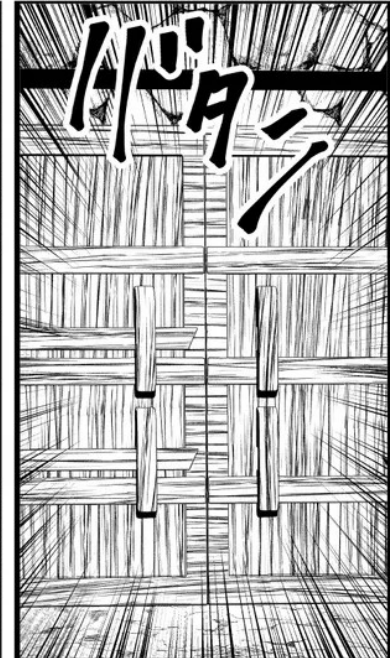
うわああああ！



ああ！



そんな！





転生の度に
魔性が拡がり心を蝕む……



我々は
魔物と交わり



魔物の力を
吸収して転生する



人と接した事で
心の隙が生まれたのか……

膝を撃ち抜かれるまで
殺気を読めなかった……



こんな雑魚と
交わる事になるとは……

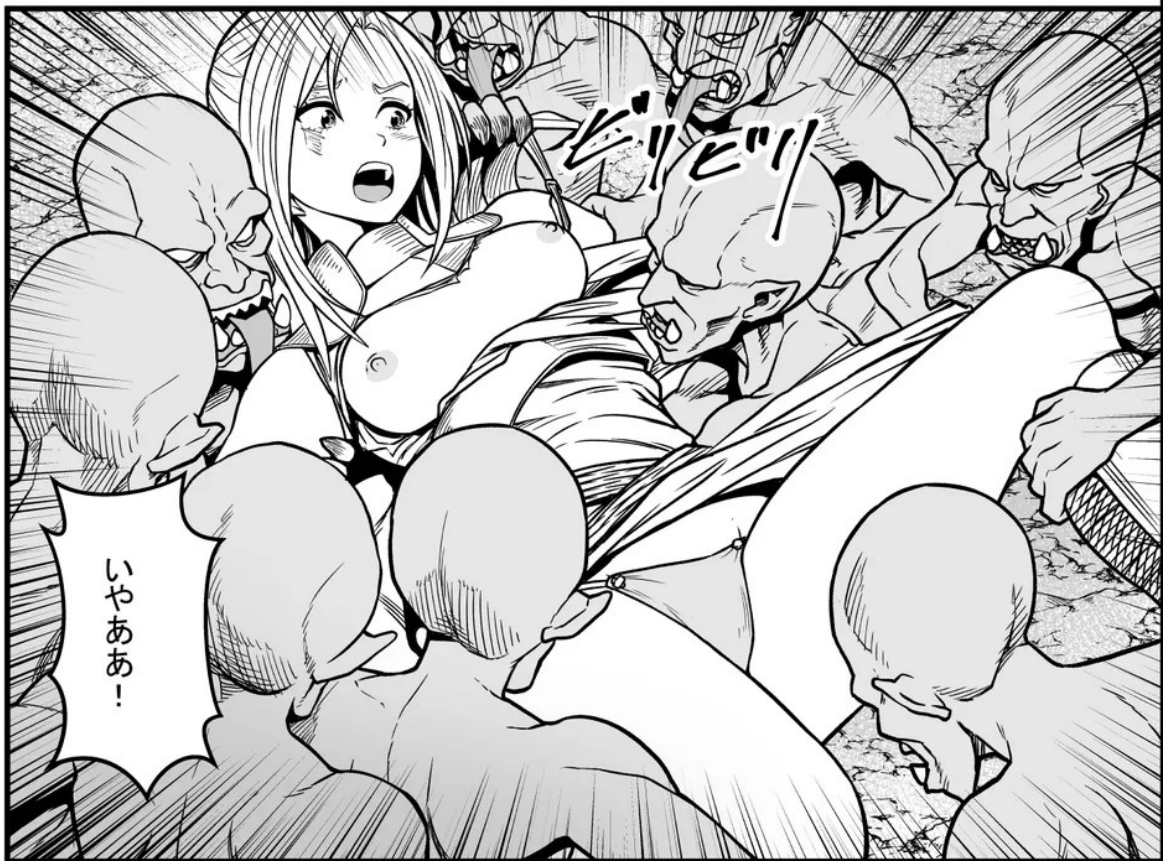
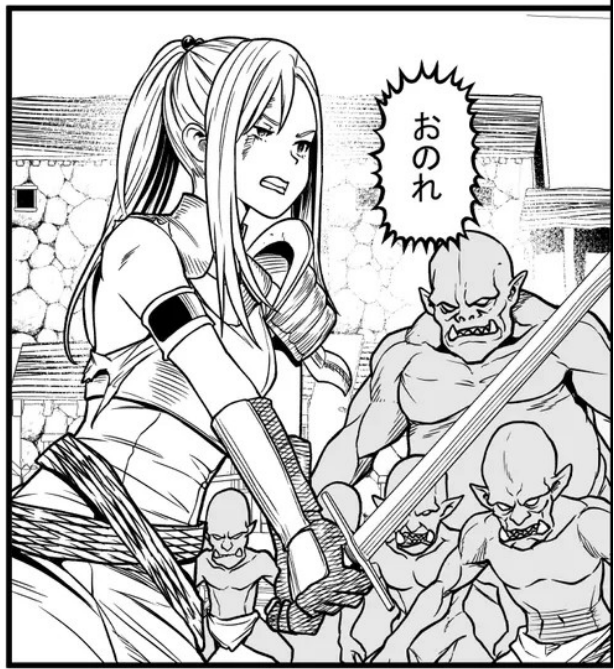
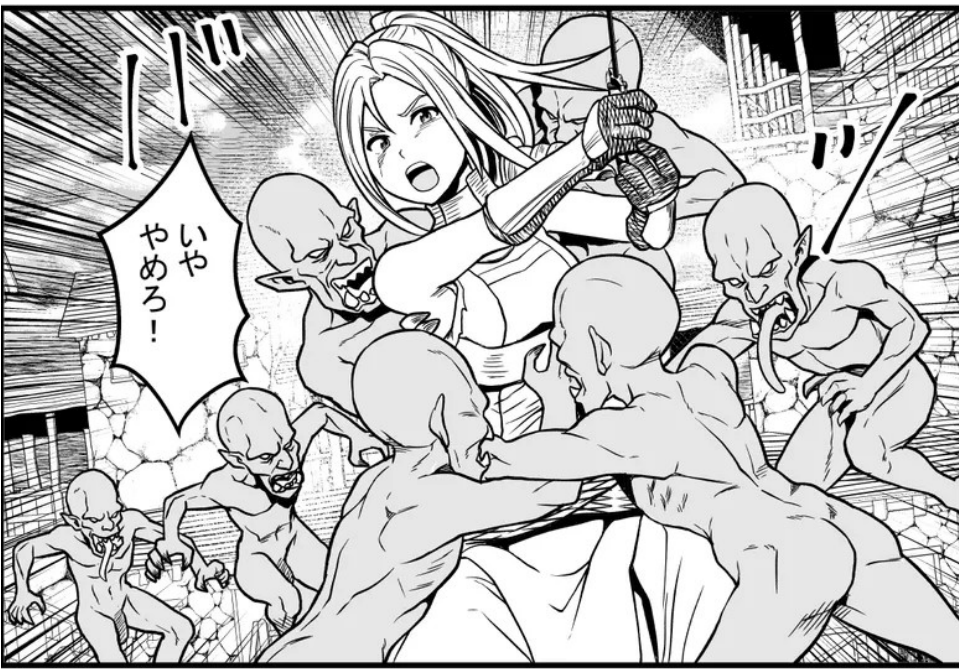
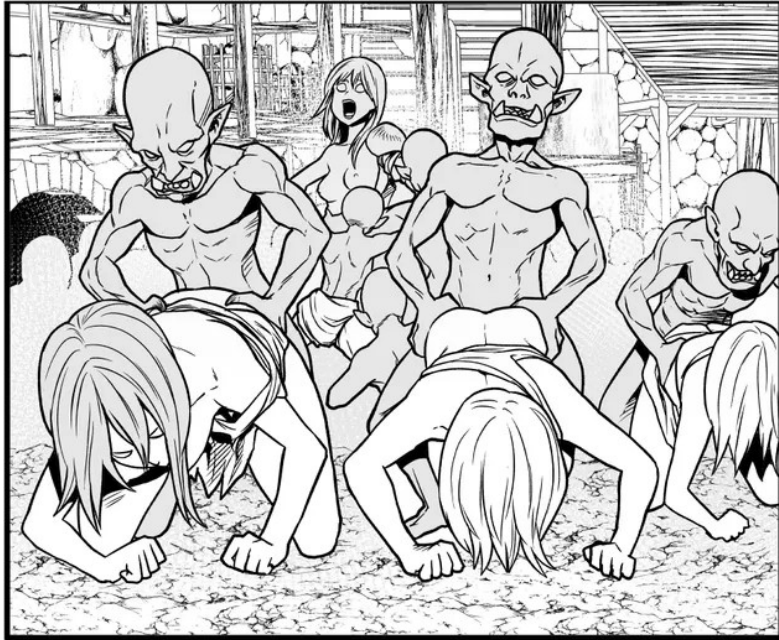


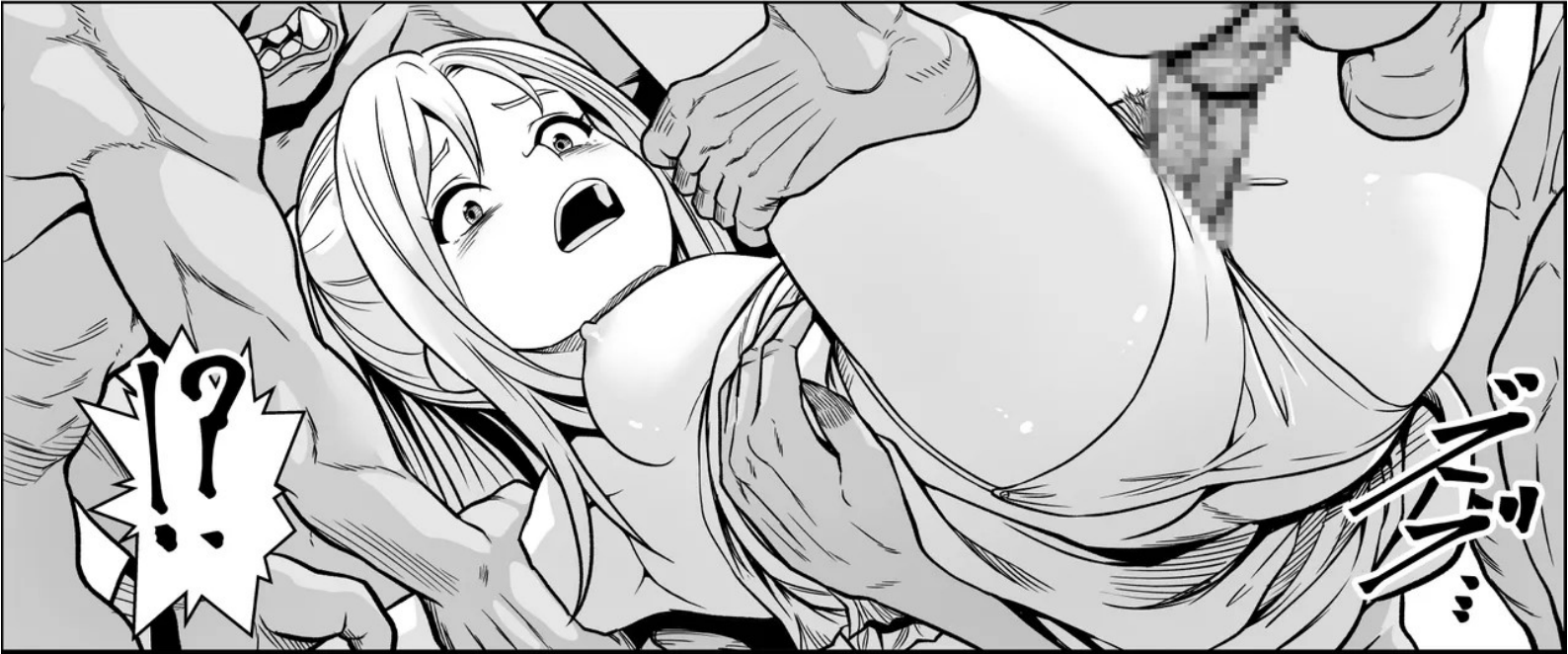
本能と暴力性！



今一度
呼び起こせ……

私の中の
魔物の力……！











おしまいだ

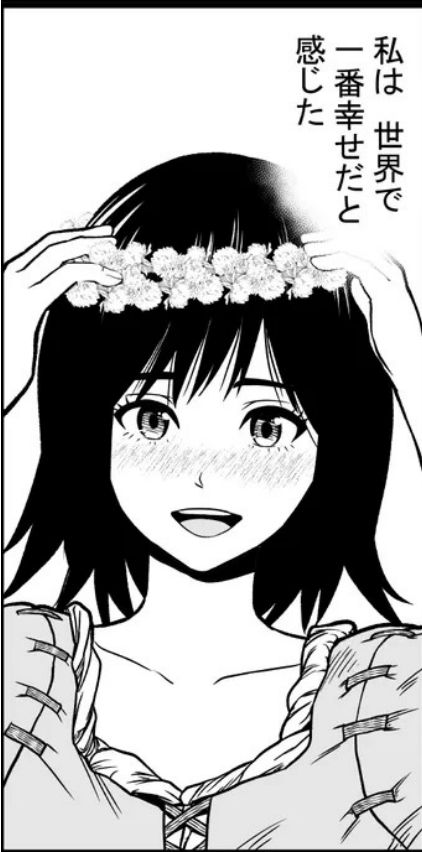
女は
魔物の子を孕ませられ

最後は
あやつて
苗床にされる

それ以外は
みんな殺され食われる



昔……
好きな人が居た……



私は 世界で
一番幸せだと
感じた



彼は
シロツメグサで
作った花の冠を
私に被せてくれた

ある時
彼に求婚された
貧しい村だったけれど



ずっと
一緒に育つた
幼なじみだった

でも次の瞬間

彼は突然現れた
魔物によって
潰されてしまった……

最愛の人を
失った悲しみは
恐怖でかき消された

それから……

私は魔物の巢で
何日も犯された……

グホッ
グホッ

このまま
犯され孕まされ
最後は死ぬ……

そう諦めかけた時

魔物の巢に
冒険者が
やってきて……

私は助けだされた

良かった
これで救われた
そう思った……

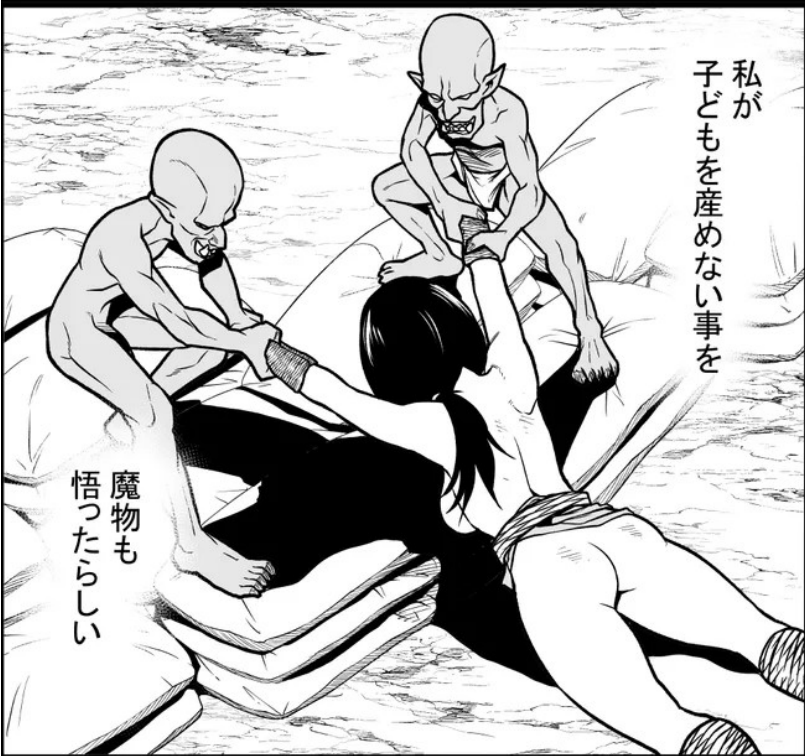


強引に
墮胎させられ……

その時に子どもを
生む機能を失った……



だけど私は
魔物の子どもを
宿している



私が
子どもを産めない事を

魔物も
悟ったらしい



ずっとそうだった
絶望は希望の仮面を
つけてやってくる

私を期待させた後に
どん底に突き落とす……

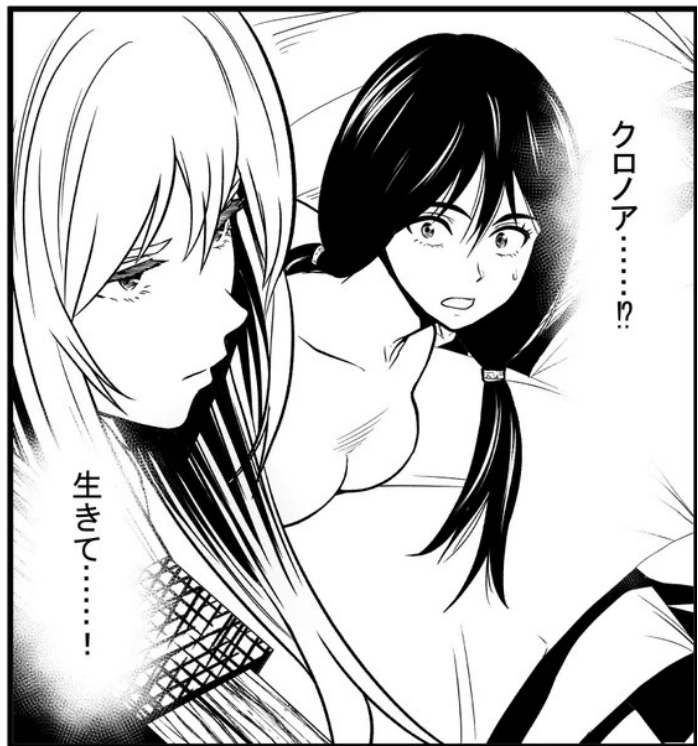


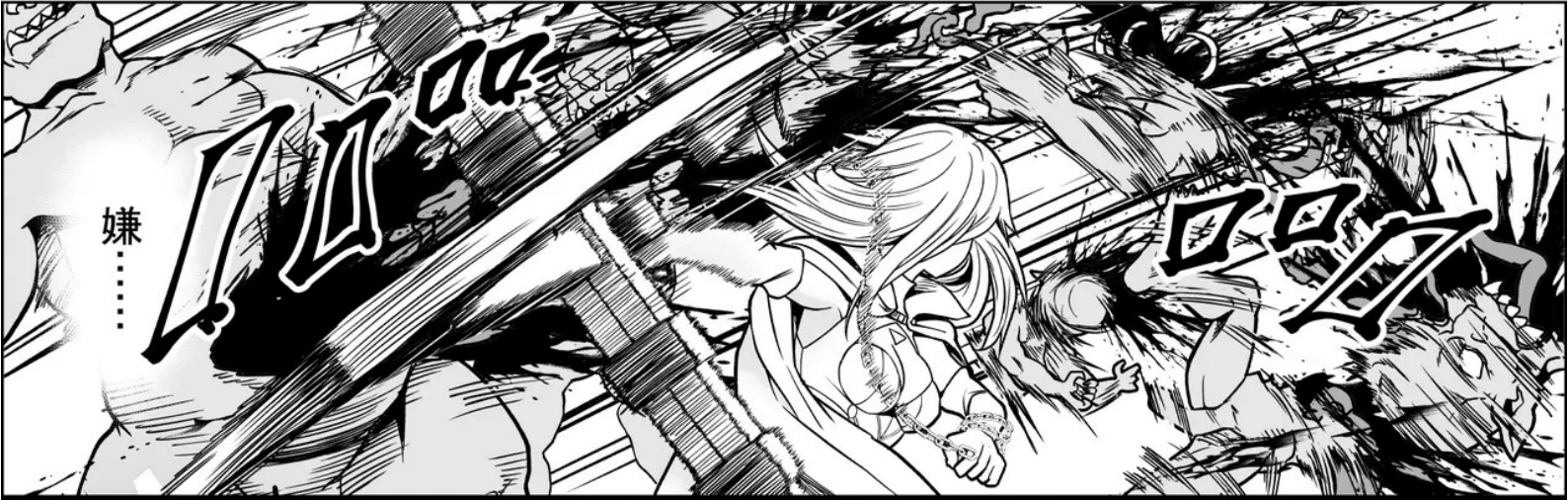
さっさと終わらせて

もう
こんな呪われた世界……
居たくない……

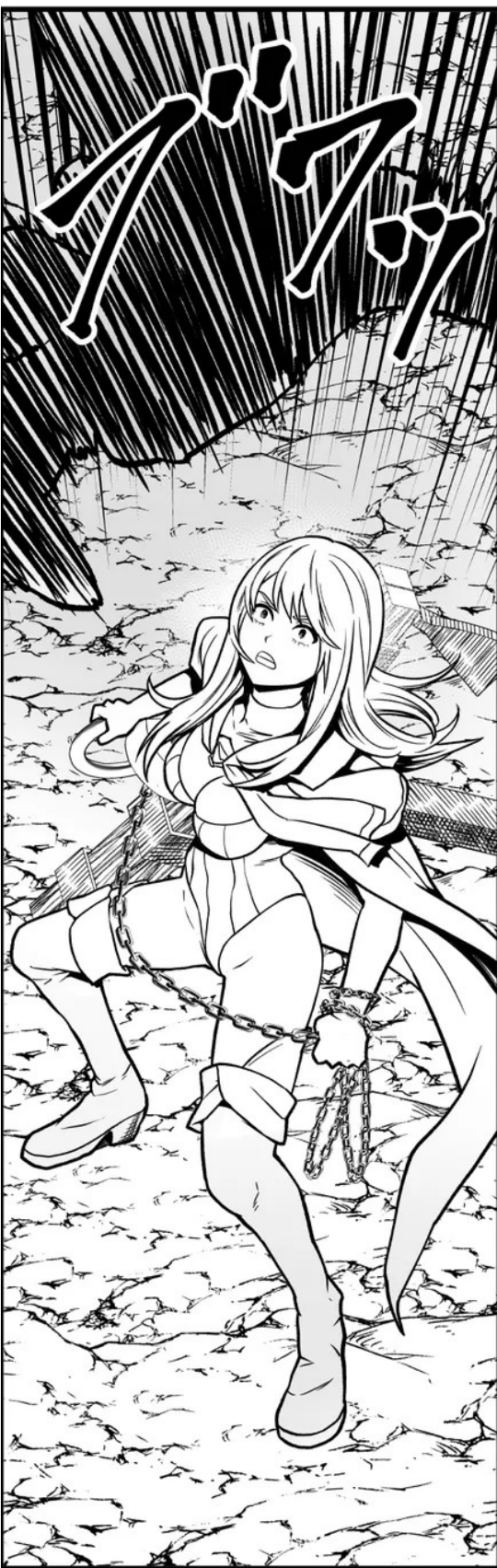


だから……
別の使い道に
回されるんだろう
「こ」で解体されて
私は「肉」として
利用される……





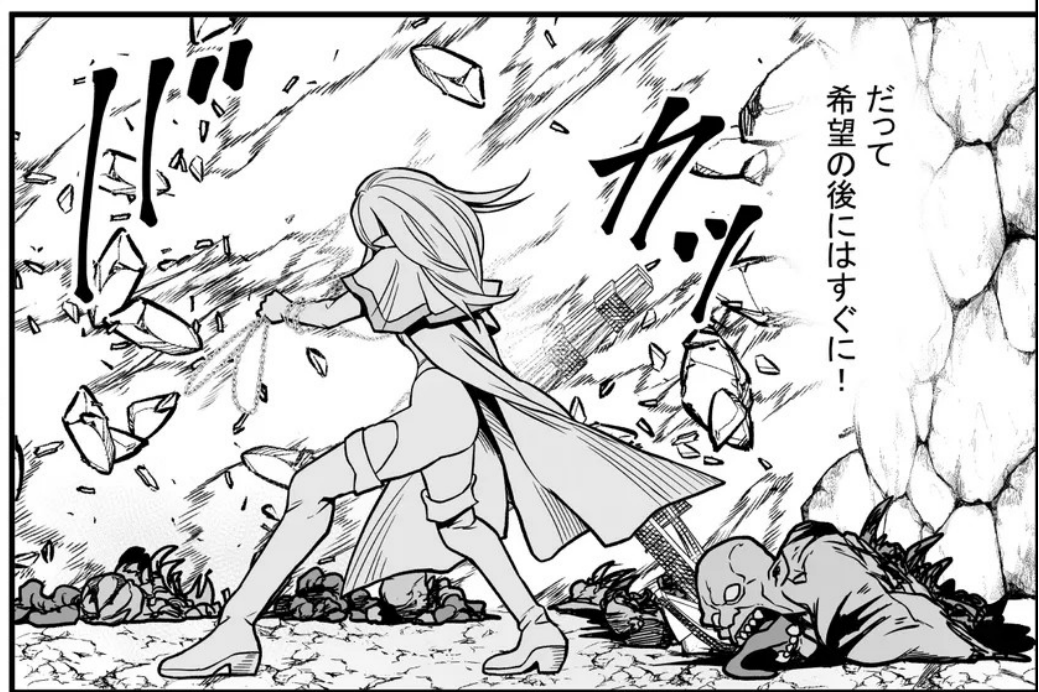
嫌
.....



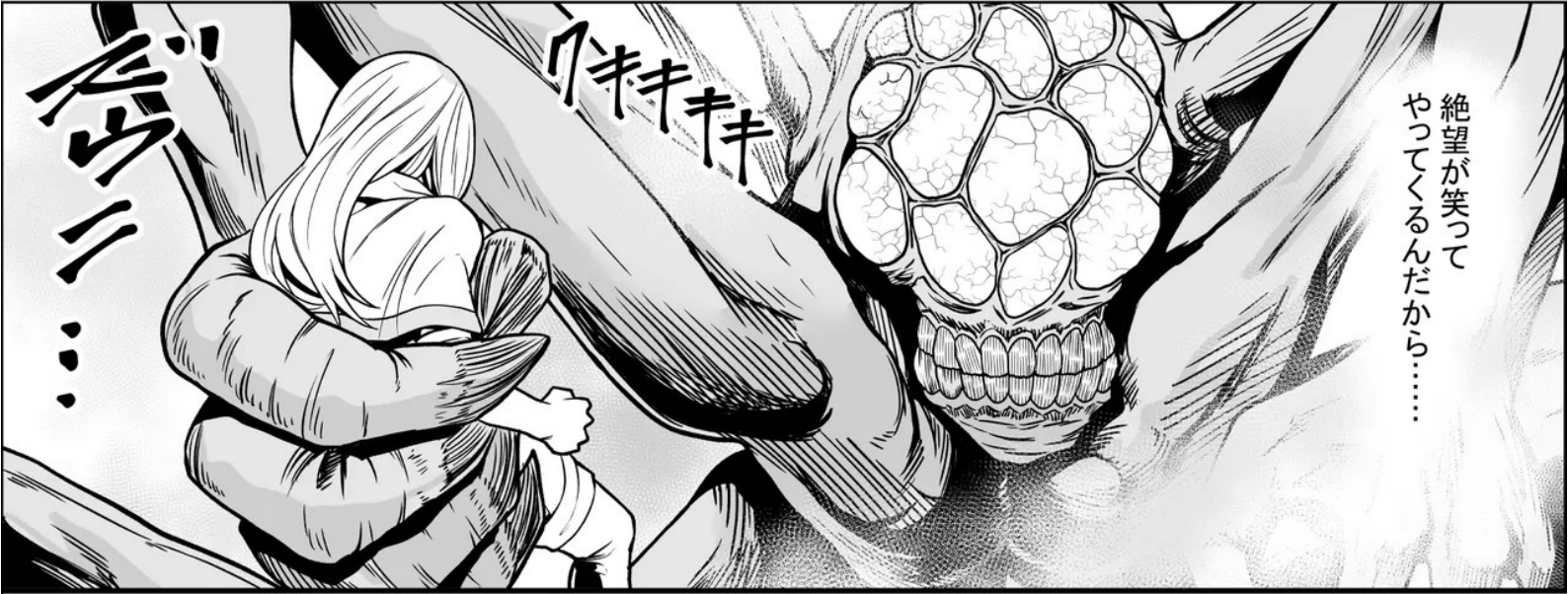
やめて.....



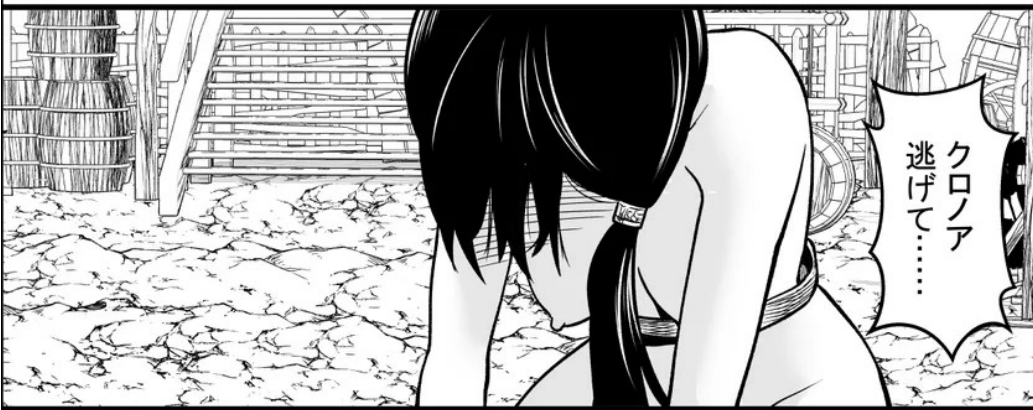
信じない.....



だって
希望の後にはすぐに!



絶望が笑って
やってくるんだから……



クロノア
逃げて……

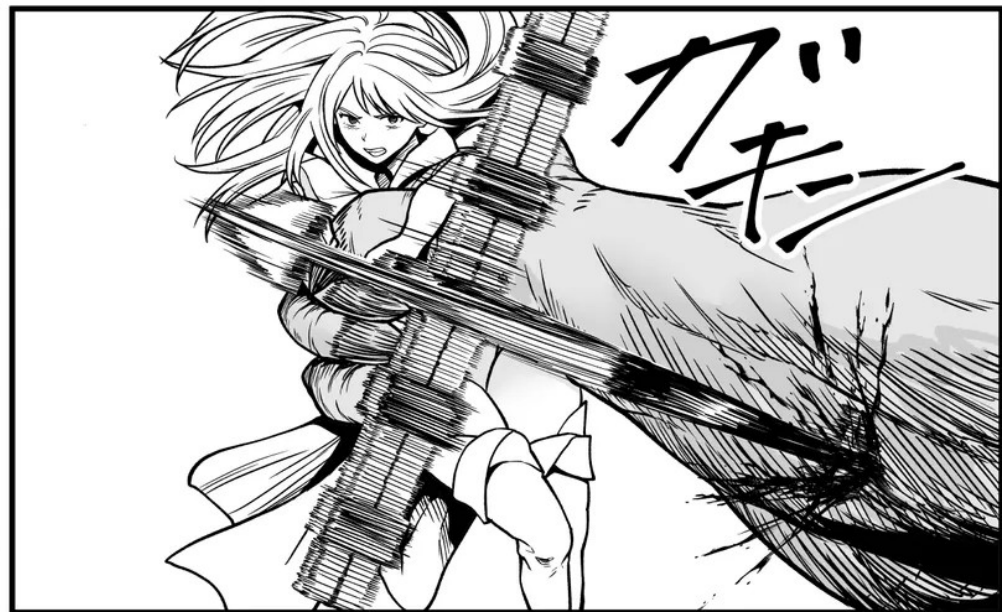


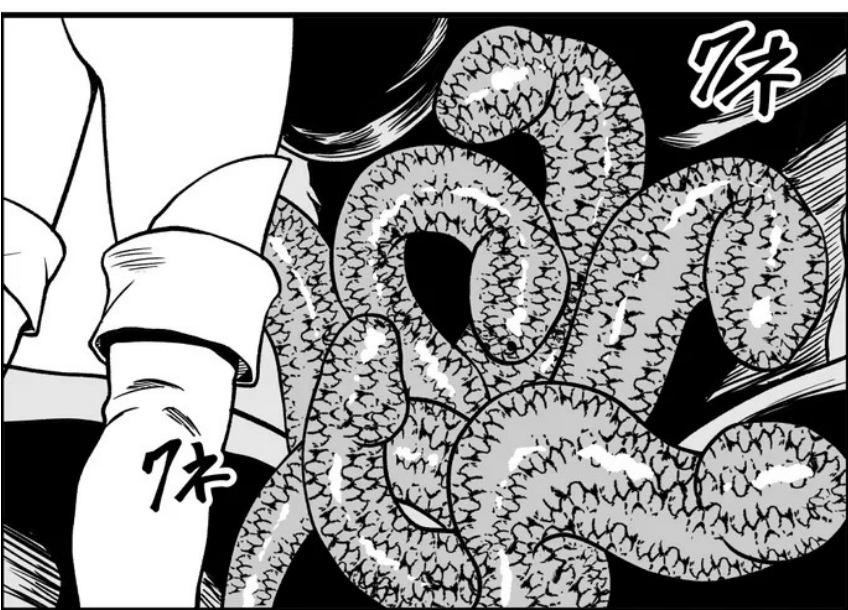
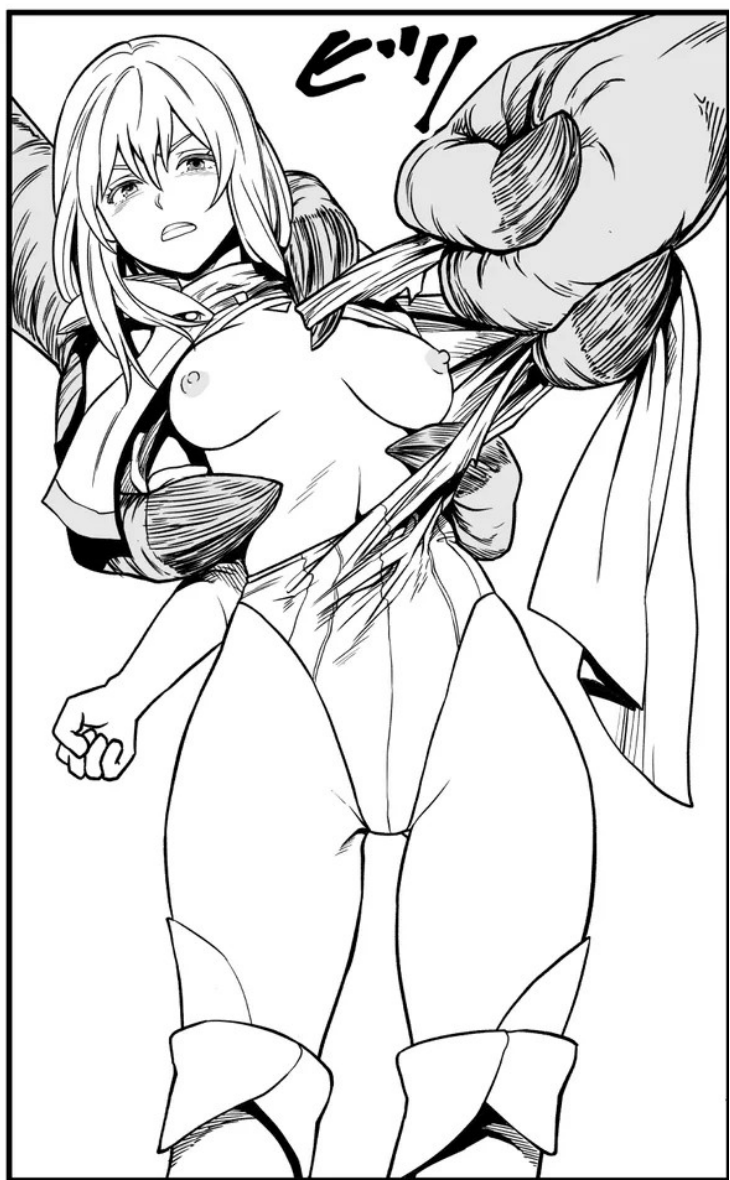
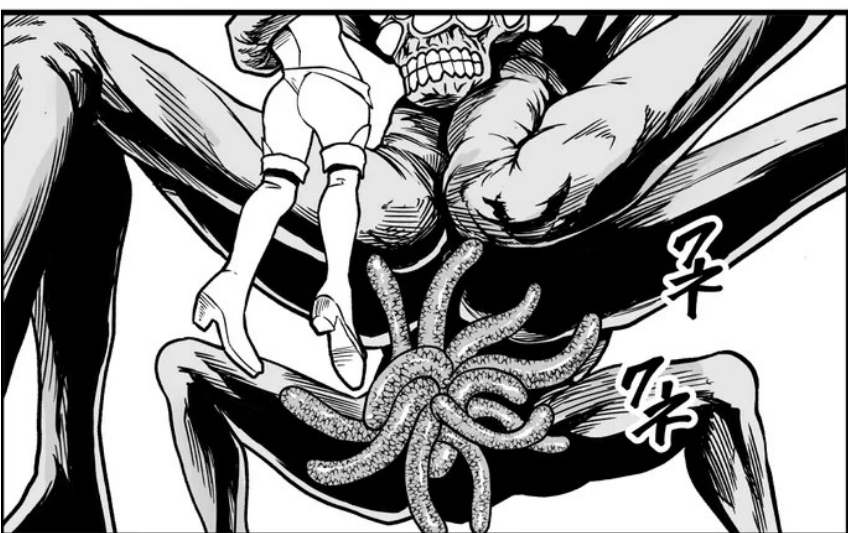
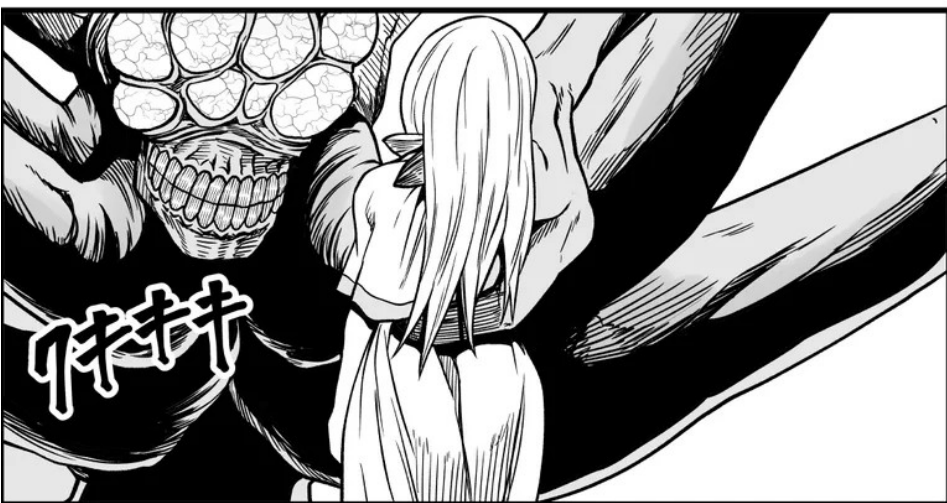
インクバス(瞬卵鬼)
こいつがこの群れの
頭目……!

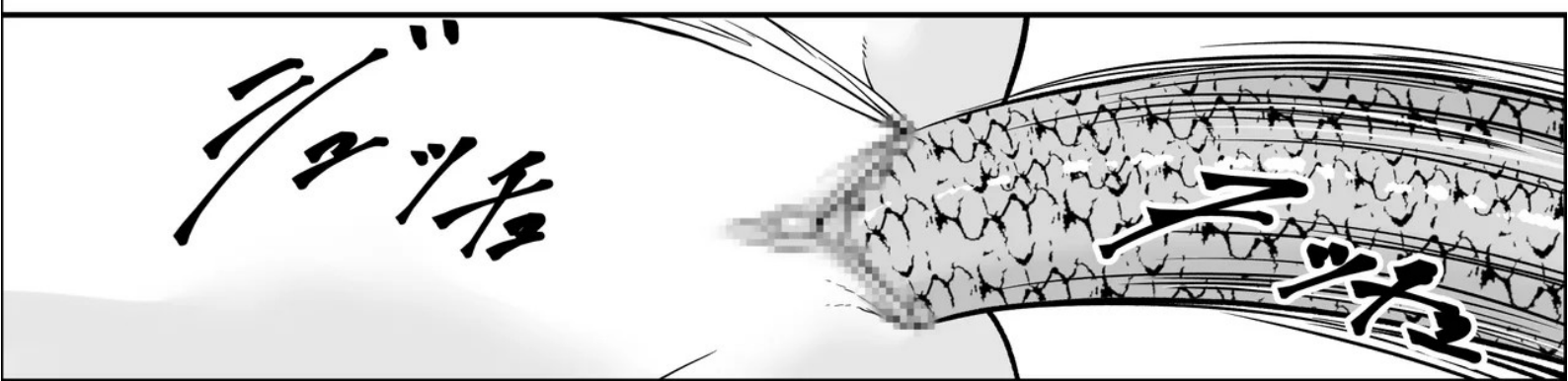
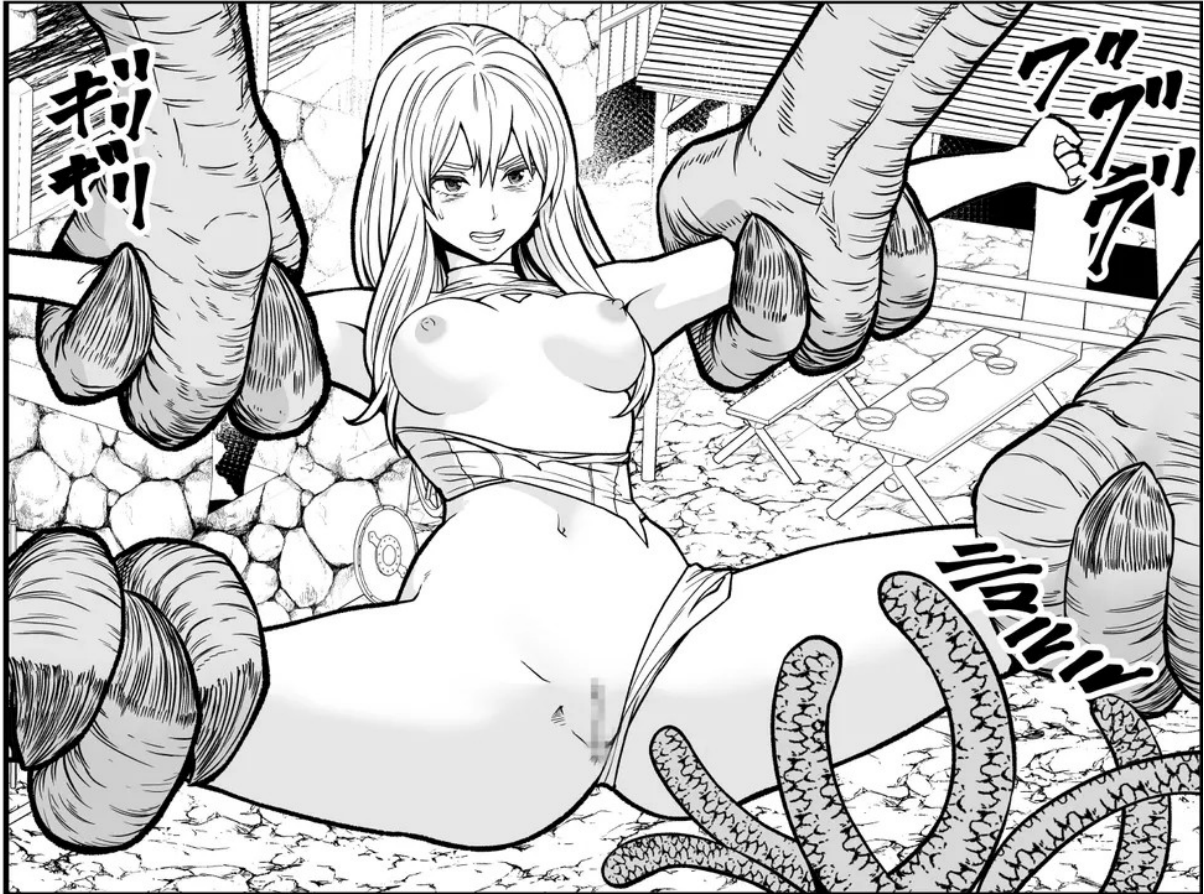


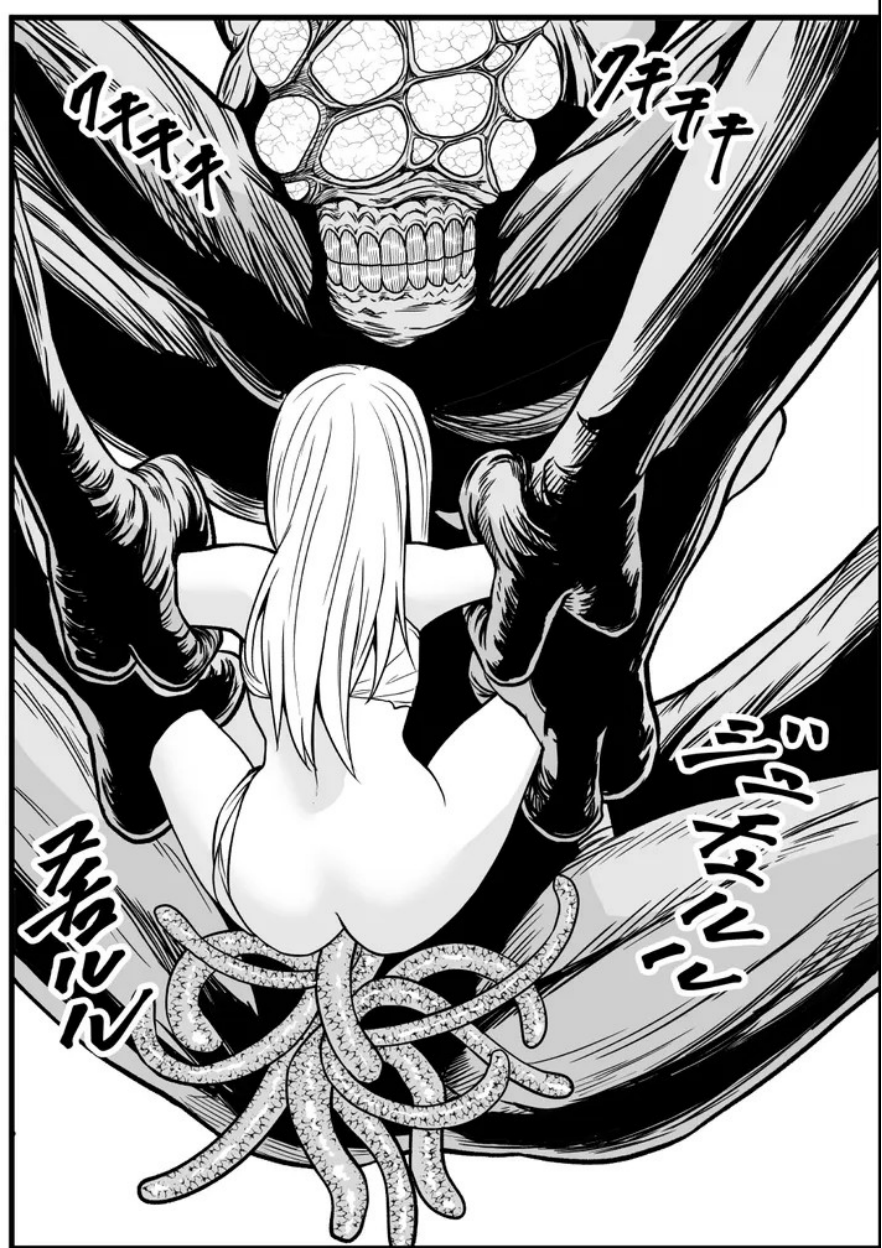
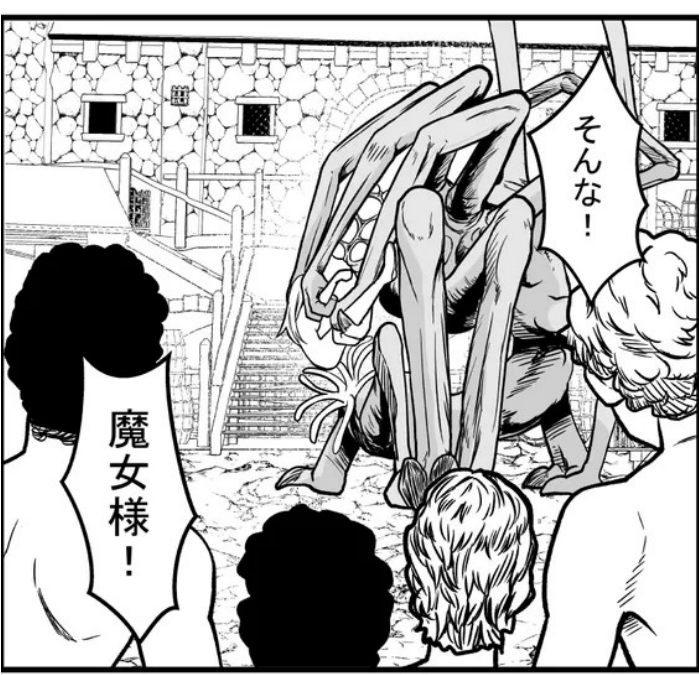
あなただけでも
逃げて!

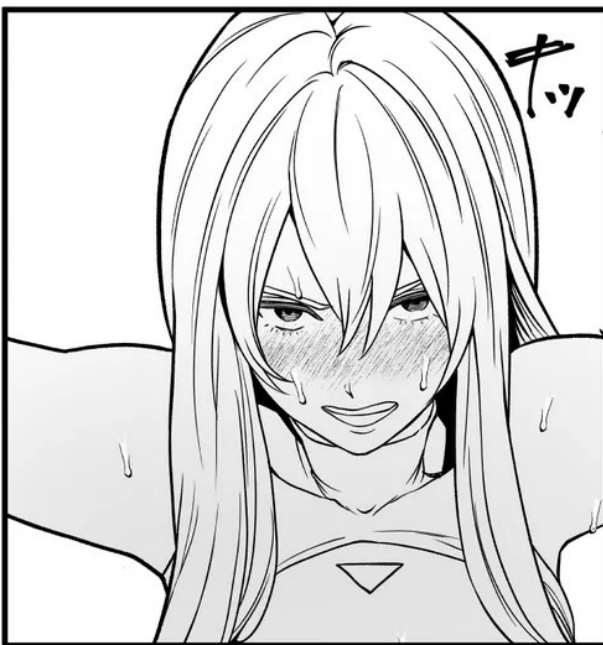
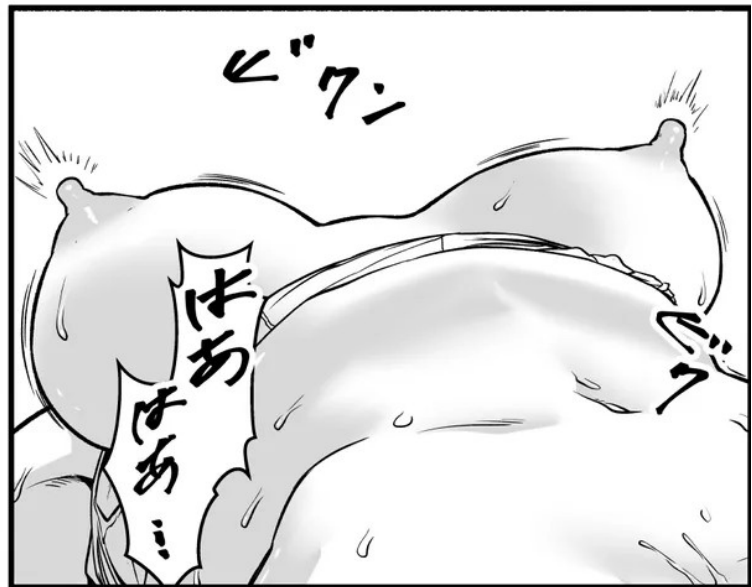
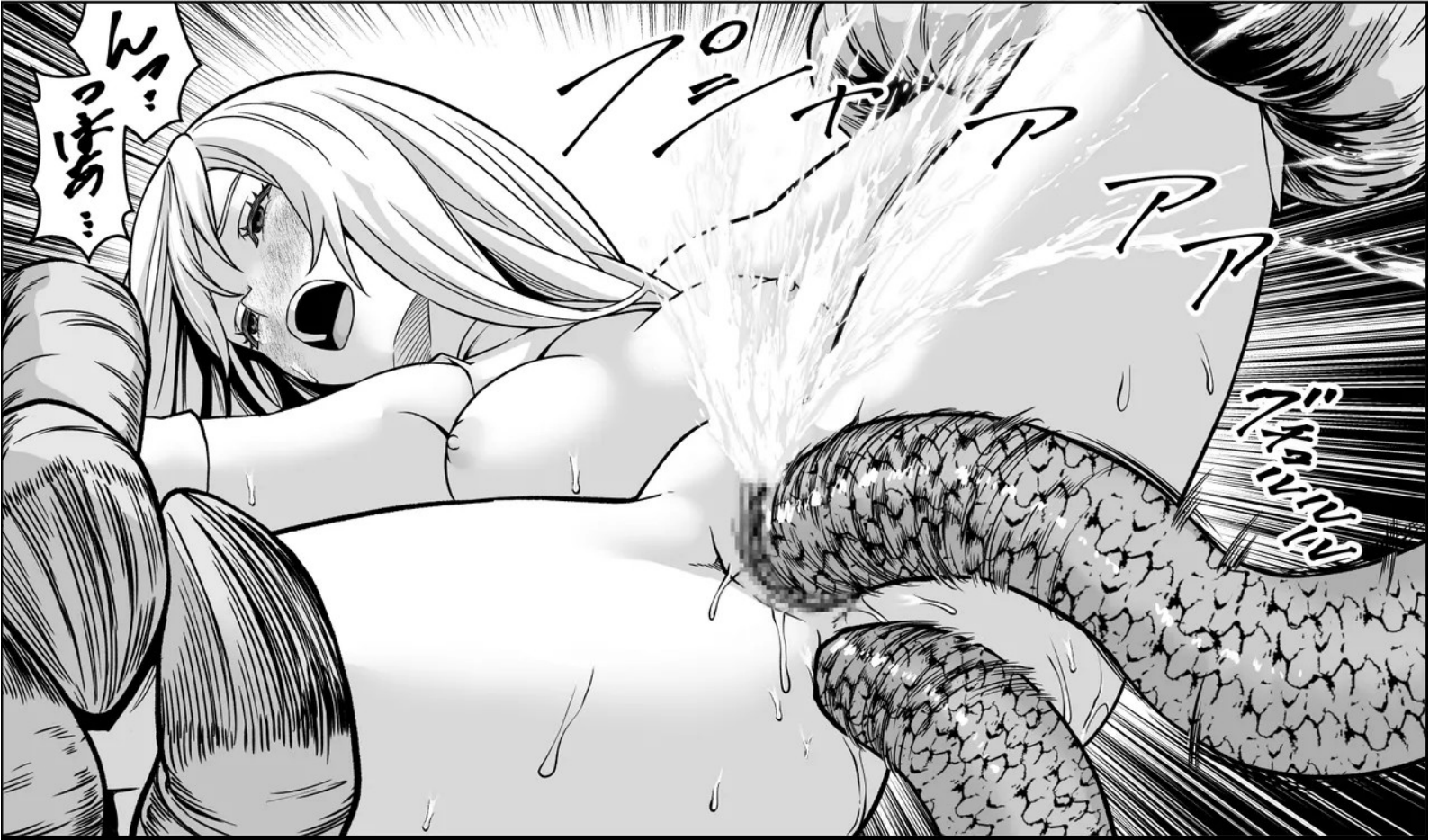
もう
偽りの光を
見せないで!

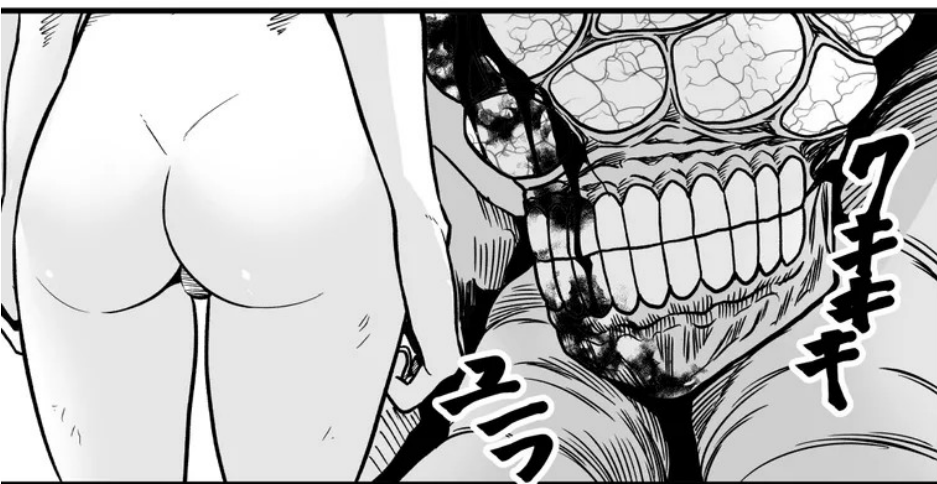
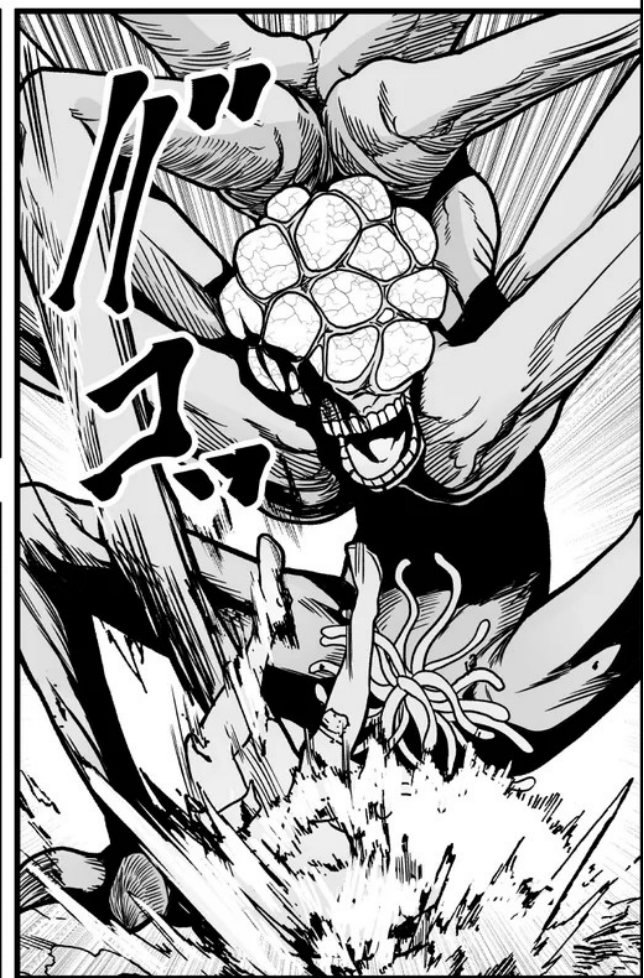
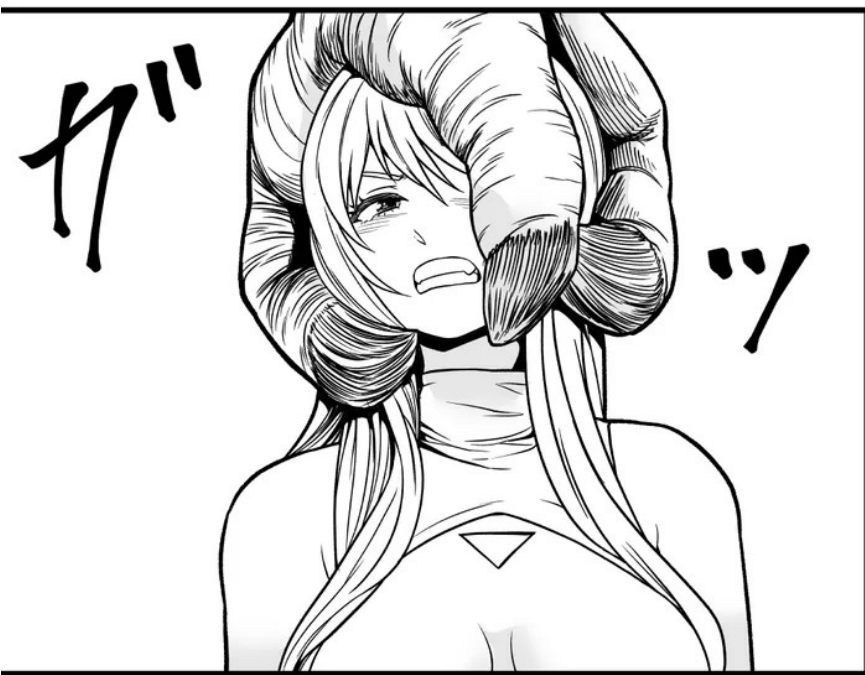
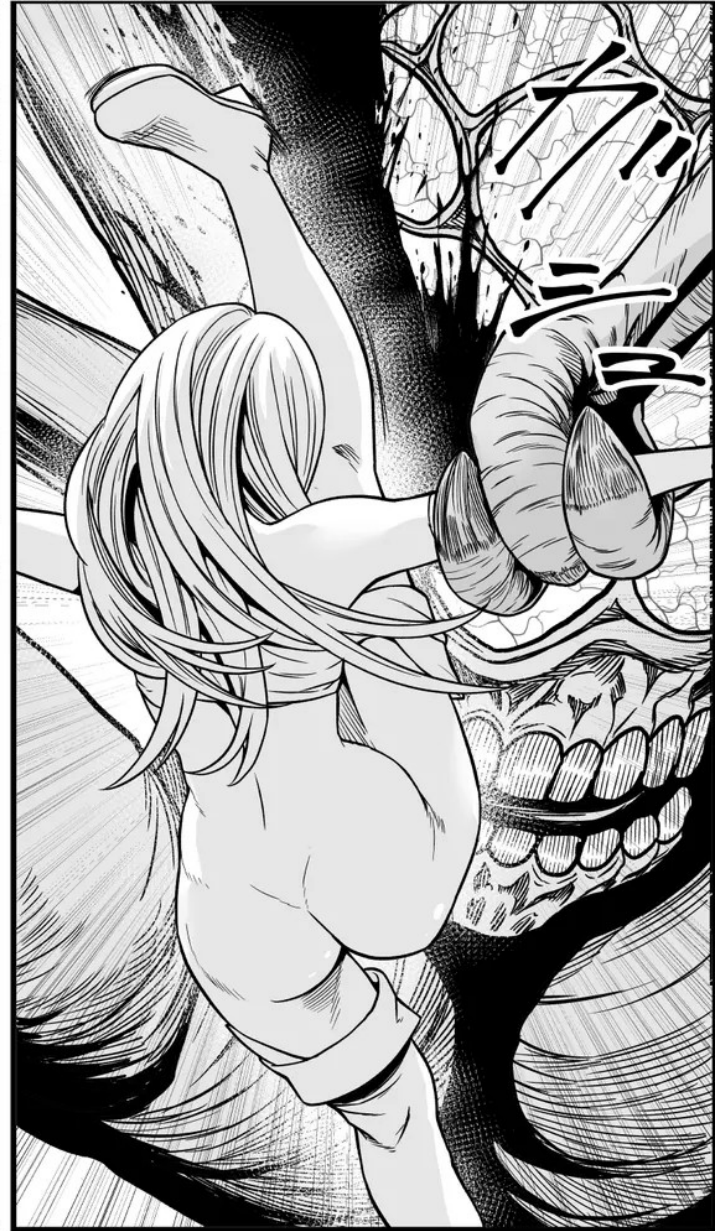
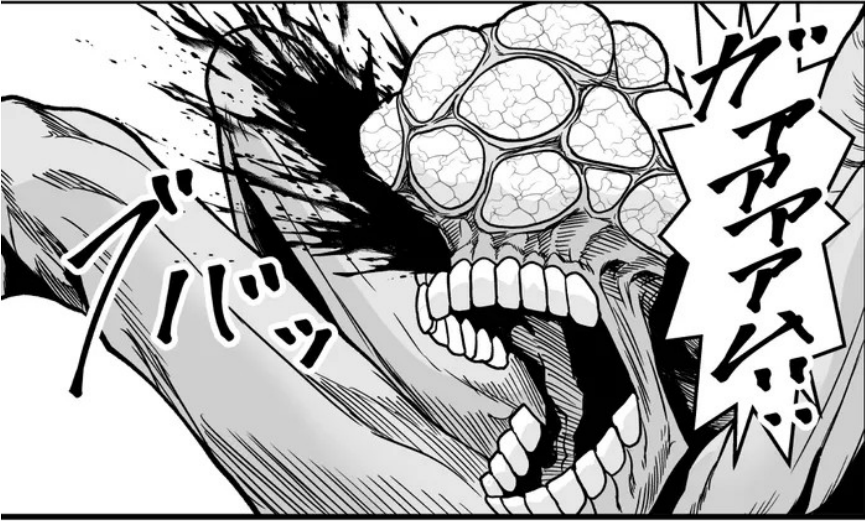


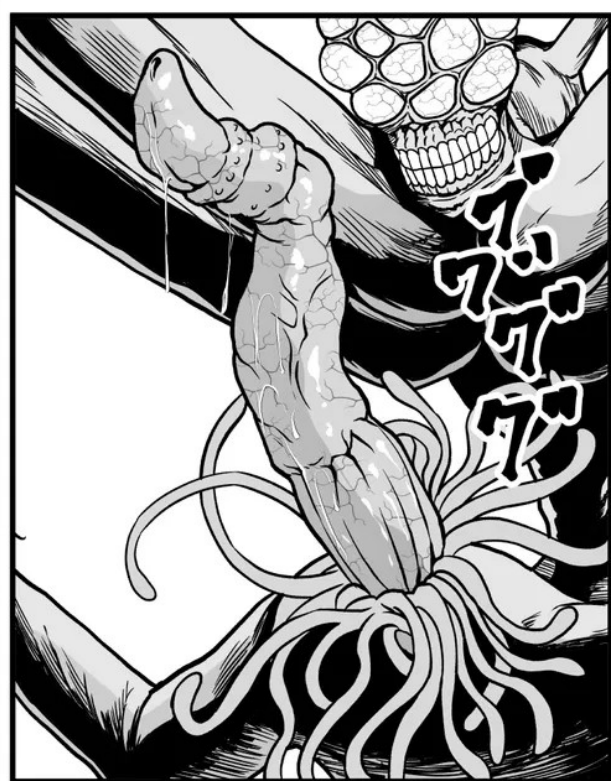
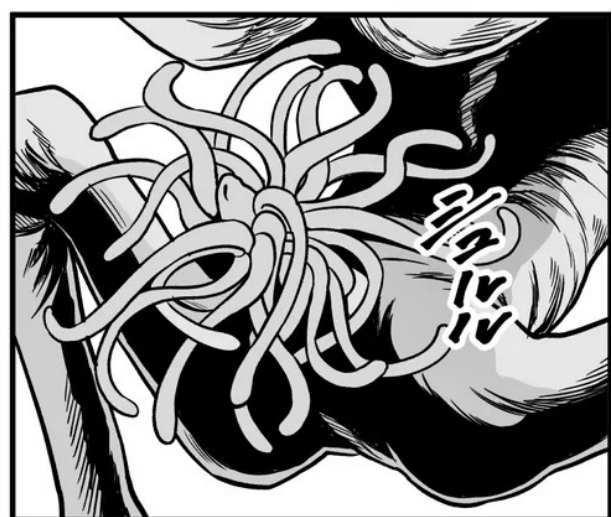
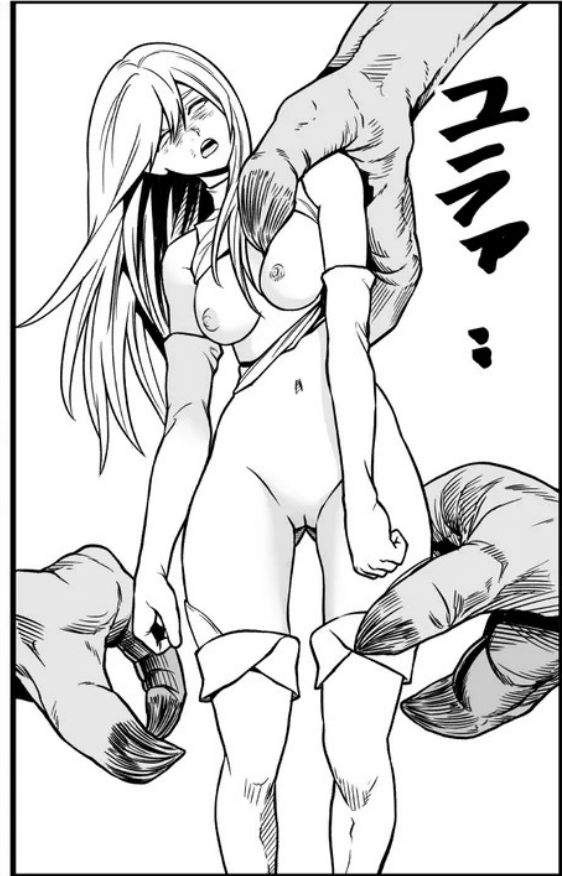
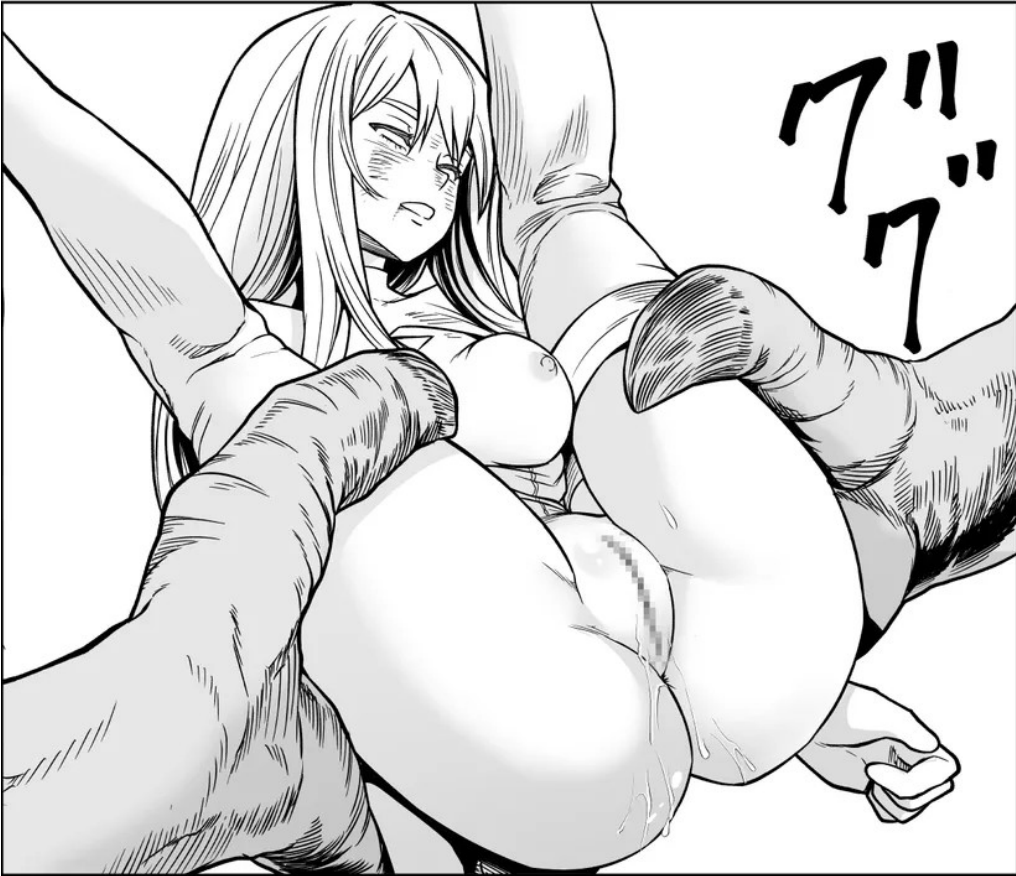


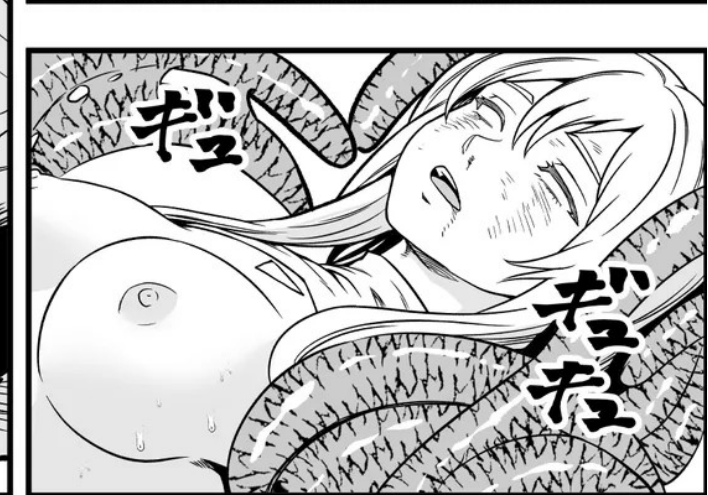
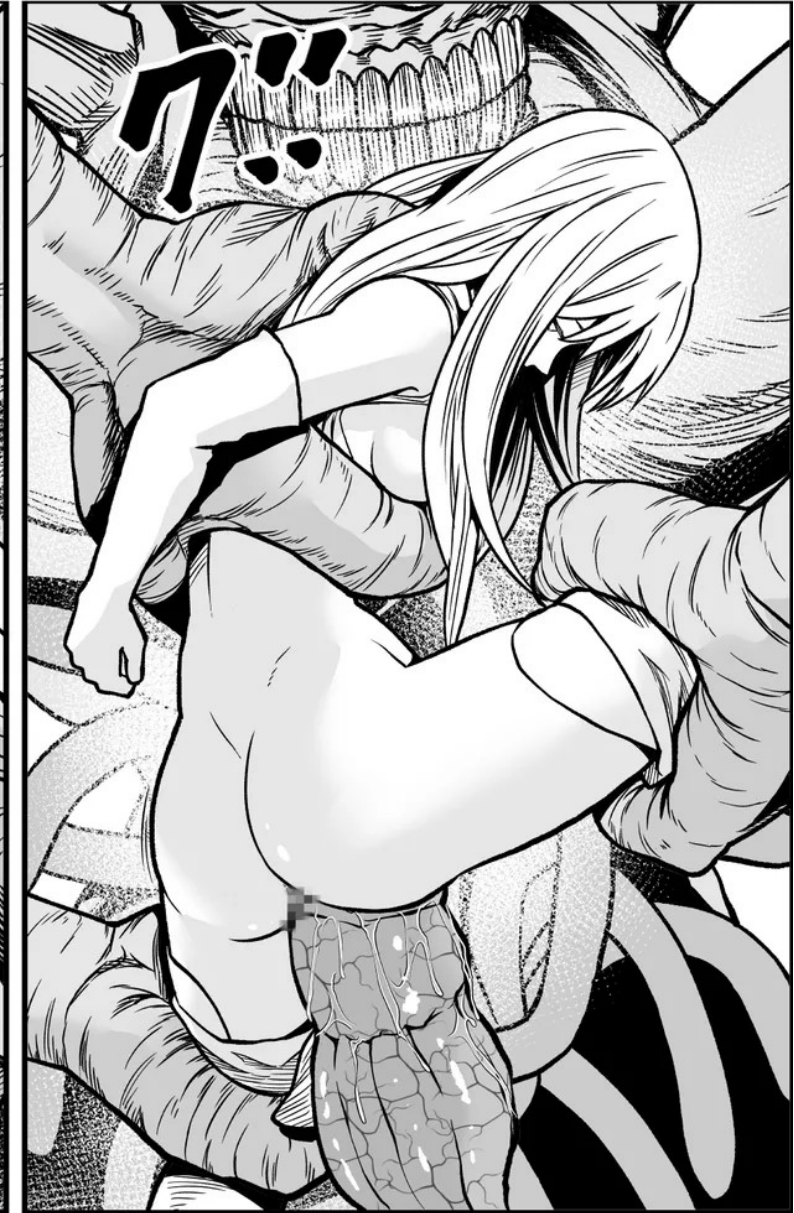
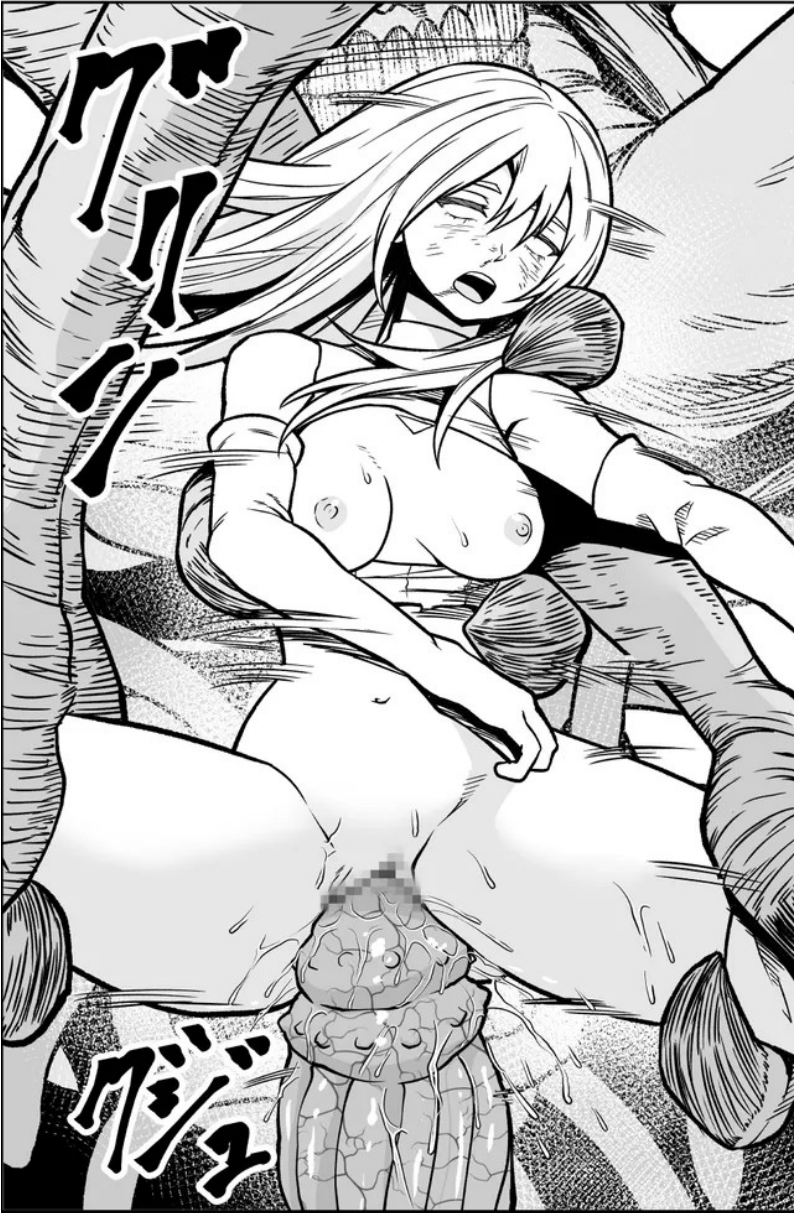




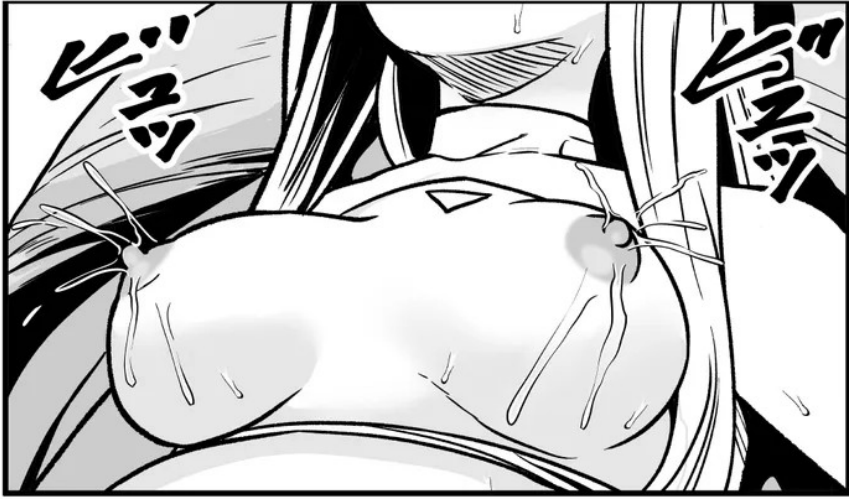


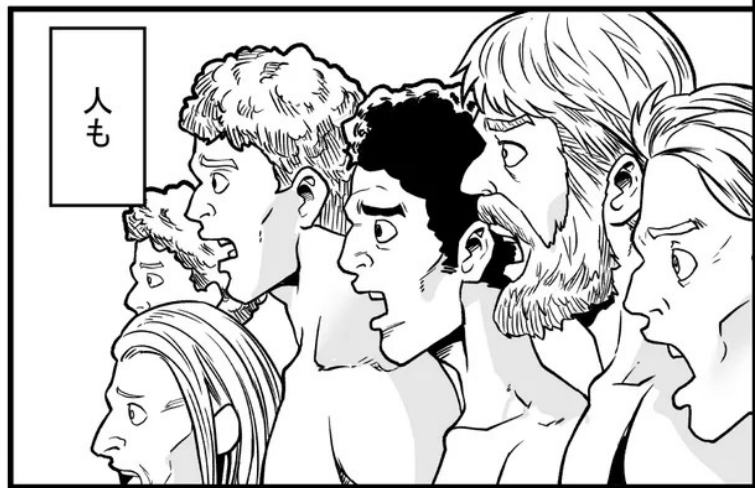
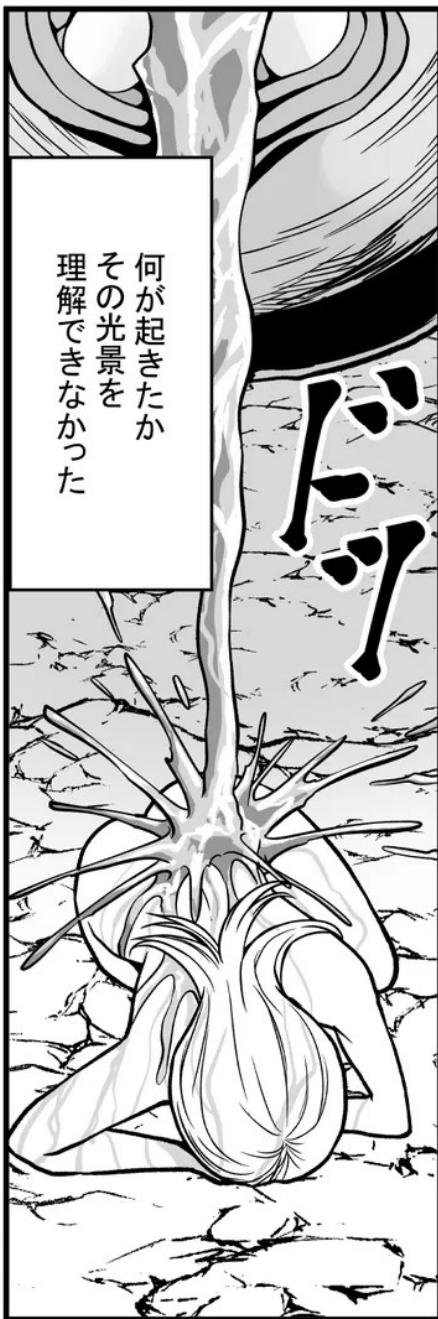


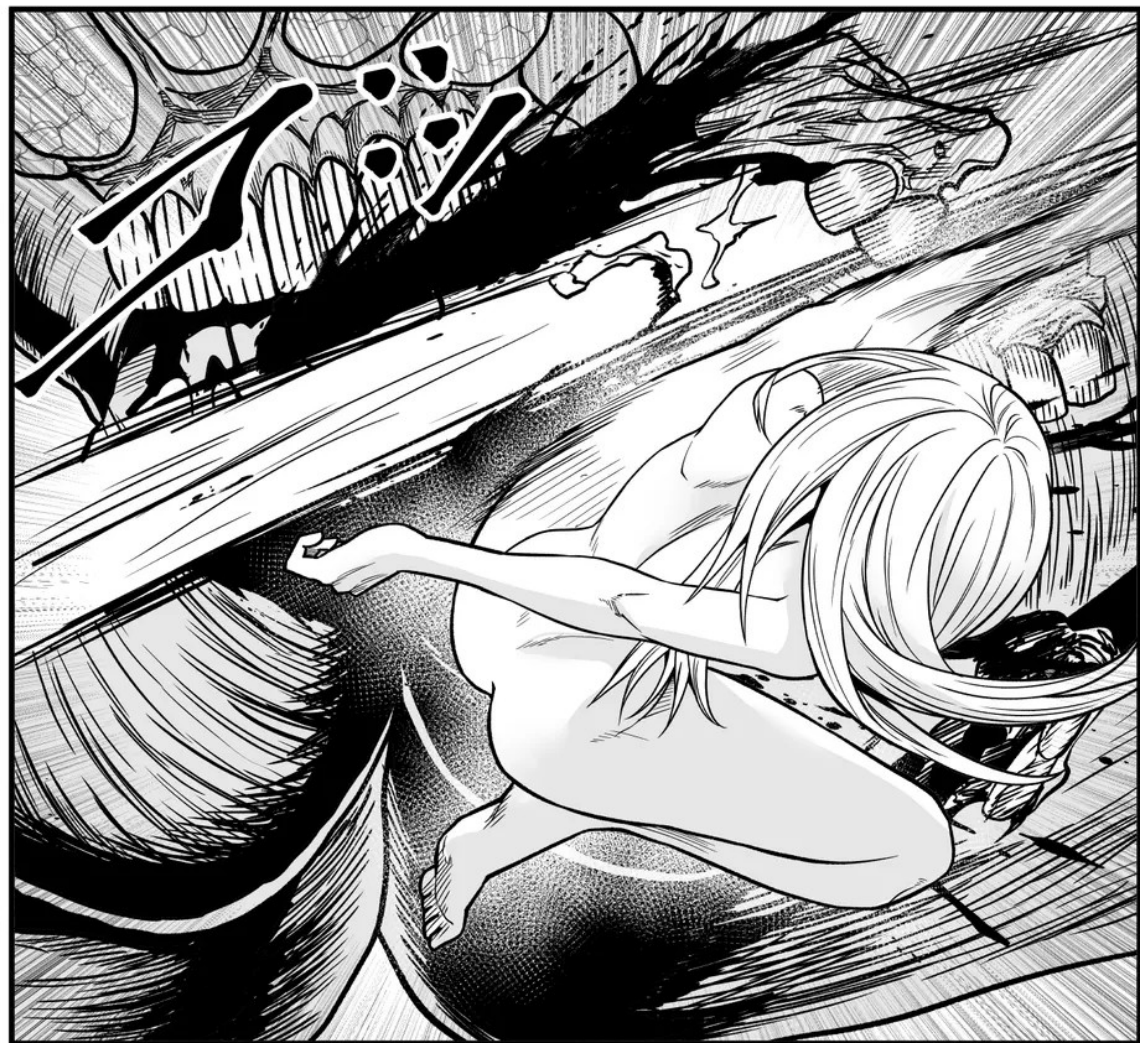
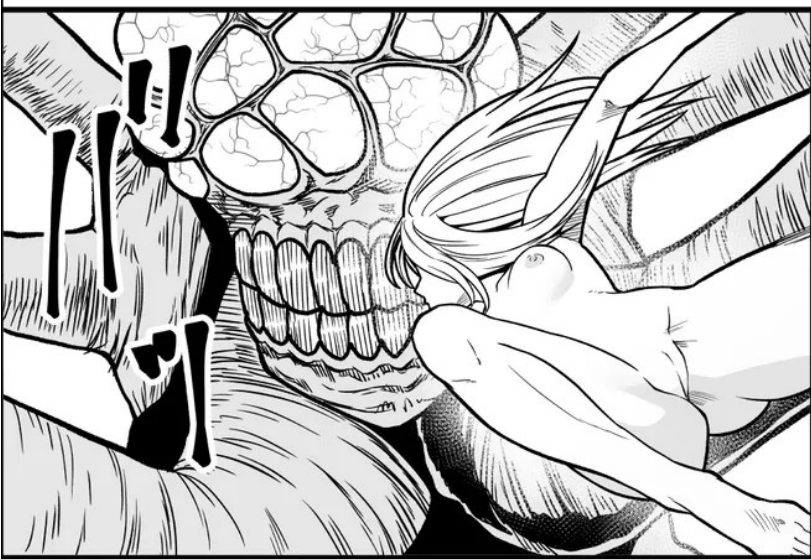
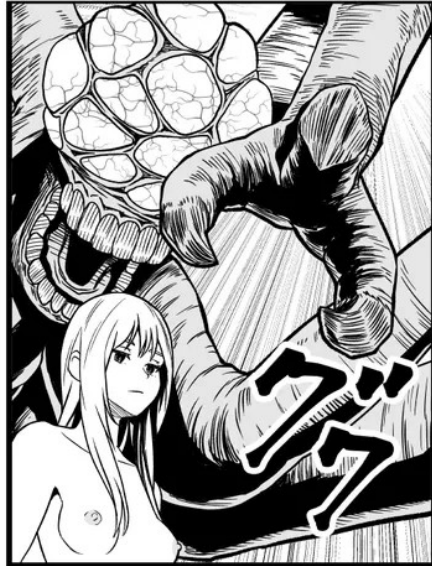














でも
それはまぎれもない
救いだっただ



絶望を
断ち切る
凶々しい希望……



目が醒めた時……
クロノアは既にいなかった



私は安堵から
そのまま倒れ

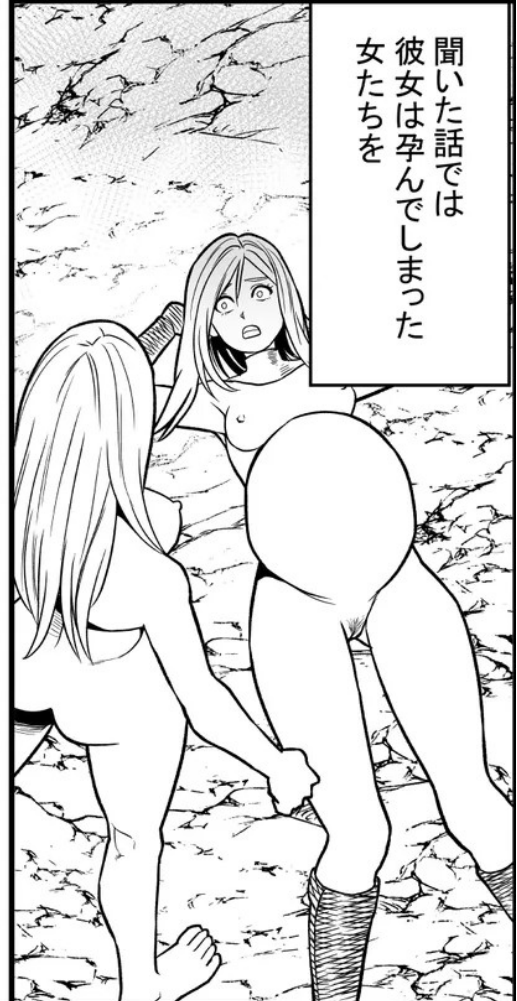


ただ
「西へ行け」と伝え
去っていったという

苗床を燃やすと



呪法により
墮胎させ



聞いた話では
彼女は孕んでしまった
女たちを



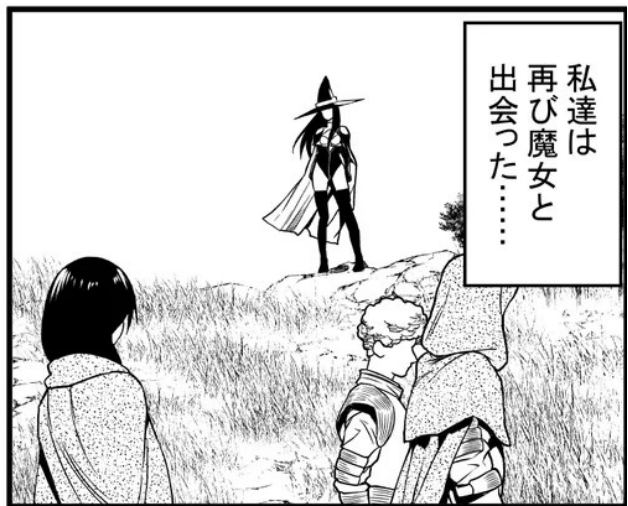
西へ
向かう道中

そして今
彼女の
助言の通り

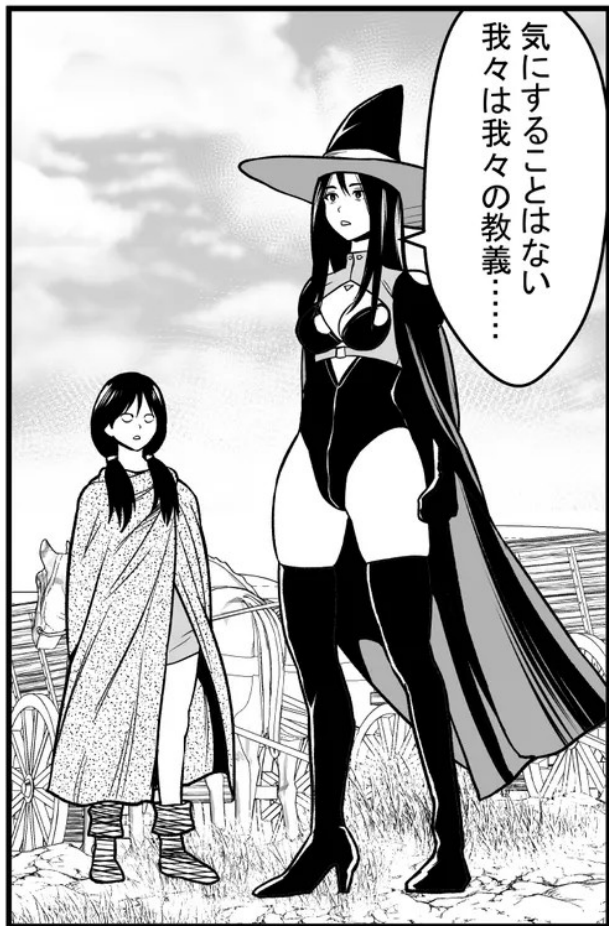


そうか
クロノアは
息災のようだ

久々に顔も
見たかったが
それなら良い……



私達は
再び魔女と
出会った……



魔物は人の娘を
使って繁殖する…

娘を孕ませ
壊し

自分たちの
都合の良い苗床へと作り変える

戦士も騎士も
盗賊もそして聖女も

挑み倒され
孕ませられた

子種を注がれ
人の娘が

神から授かった
その腹の揺り籠に
不浄なるモノを
宿した時…

産まれ出る
魔の眷属は

母親である
人間の特性を
受け継ぐ…



私達魔女は……
それを止めるために
存在する……



それが
魔物の進化だ……



苗床と
された娘たちの才能と
力を継承し
強化され耐性を得る



我らは
女神ソルラナの使徒



この身に授かった
太古の女神の
祝福へのろいによって

魔物を根絶するために
不浄なる精を受け入れる……



我らは
希望ではない

謂わば
人と魔物の交配の
賜物を食らう病変……



不浄なる輪廻を巡る

創造と破壊の体現...



苗床熾天使

